

# 楽しさを演出する

人が集うところ  
つと



1991-10 56

KUNIZUKURI TO KENSHU

## 国づくりの研修

【人物ネットワーク⑦】  
森繁久彌／【グリユック王国に見る楽しさのヒミツ】西悼夫／【まちづくりの「物語性」をどう生かすか】福田敏彦／【テーマパーク型まちづくり私論】福田順子／【都市の磁場喪失と都市集客論再考】檜権貢／【高速道路と高層ビルの共存】／【前田建設の社員教育】／【経済・社会のキーワード、東京一極集中をめぐる分析と平成3年建設白書から】／【上田の未来像を求めて】シンポジウムより】【九〇年代「知的生産」「知的生活」の方法】昇秀樹／【補償コンサルタン卜専門研修に参加して】

# 国づくりの研修

第56号 1991.10



建設企業の研修は今 29

前田建設の社員教育

～新入社員教育について～ 44

KEYWORD

東京一極集中をめぐる分析 32

～平成3年建設白書から～

平成3年建設白書の主題/東京に押し寄せる青年層  
見かけ倒しの東京ライフ/一極集中限界モデル

OPEN SPACE 50

祝儀・不祝儀のマナーを考える 金谷千都子

足利尊氏の三徳 宝井馬琴

お金よりも大切なもの 小林千登勢

ちょっと気になるVOICE 54

知ってますか？ 最近の地球環境問題

～難題は二酸化炭素による地球温暖化～大浜一之

ファジーなコミュニケーション 外山滋比古

声

補償コンサルタント専門研修に参加して 48

BOOK GUIDE 31

「'91建設白書早わかり」

「パプルの物語」

学校案内

北海道測量専門学校 36

VIEW

'90年代「知的生産」「知的生活」の方法II 昇 秀樹 58

人物ネットワーク⑦

インタビュー 森繁久彌 4

特集 楽しさを演出する

～人が集うところ～

グリユック王国に見る楽しさのヒミツ

インタビュー 西 惇夫(ゼンリンレジャーランド代表取締役) 8

まちづくりに「物語性」をどう生かすか

福田敏彦(電通マーケティング局・ディレクター) 14

テーマパーク型まちづくり私論

福田順子(流通産業研究所研究企画部長) 18

都市の磁場喪失～都市集客論再考～

檜 貢(日本都市センター主任研究員) 28

上田の未来像を求めて

～シンポジウムより～ 22

現場ルポ 高速道路と高層ビルの共存

～不思議なカタチ? いいえ、もっともな関係です～ 38



表紙 サンタモニカのサーカス小屋  
ロスアンゼルス

裏表紙 フェリアの祭、夕景  
スペイン、セビリア  
～提供 世界文化フォト

edit & design

H. Ogt/H. Yam

楽しんでる演出する



(写真：グリュック王国 本文参照)



リレー⑦ 人と人の間に、時代が見える

# 人物ネットワーク

## 森繁久彌

もりしげ・ひさや



もりしげ・ひさや

大阪府生まれ。1936年東宝劇団に入団たのが芸能界への第一歩。戦争末期には満洲新京放送局でアナウンサーをしていた。戦後、46年に引き揚げてから、ムーンラン―ジユ、NHKラジオの「愉快な仲間」などに出演してコメディアンとして認められて映画に進出。主な主演作品に「二等重役」もの、「夫婦善哉」、「猫と庄造と一人のをんな」、「雨情」、「駅前旅館」などの駅前もの。

57年以来、加藤道子と二人で続けているNHKラジオの「日曜名作座」、67年初演の「屋根の上のヴァイオリン弾き」、65年の「七人の孫」に始まるテレビドラマ、大ヒットした「知床旅情」をはじめとする歌手としての活動、『森繁自伝』ほか多くの著書や小説など、映画以外での活躍も幅広い。  
75年度菊池寛賞受賞。84年文化功労者。

(朝日人物事典より)

森繁久彌 ■ 川崎洋 ■ 石垣りん ■ 天野祐吉 ■ 富士真奈美 ■ 四方洋 ■ 北村廣太郎

——きようはまず、前回の川崎洋さんから  
お話のありました日本最初の国際ラジオドラマ  
コンクール「森繁賞」について、おうかがいで  
きたらと存じます。森繁さんといえば、日本演  
劇人の第一人者であると同時に、ラジオの草分  
け的存在でもいらつしやる。そこで、この「森  
繁賞」、このときの総合プロデューサー岩間芳  
樹さんが、ラジオ作家たちが手弁当で国際イベ  
ントをやったということで「テベント」という  
言い方をなさってますが、たいへんな御苦労が  
あったのでしょうかね。

## ラジオの命

「そうでしょうかね。岩間さんにも川崎先生に  
も御苦労をかけました。私のところへは、日本  
放送作家協会の阿木翁助会長が突然やってきて  
『君の名前をかしてくれよ』と言うから、『君  
の名前って何ですか』と言ったら、『それで賞  
をつくりたい』と言うんですよ。『冗談じゃあ  
りませんよ、勘弁してくれ』と言ったら、『い  
や、いいんだよ君。三七年間も日曜名作座だっ  
てやっているんだし、ラジオの方には切っても  
切れない人なんだから、あなたの名前で賞を出  
そうと思う』と。そんないきさつで、結局お任  
せをしたんですかね。

ただ、賞というのは、いままで私もずいぶん

いろんな賞をちようだいしましたが安いんでね。  
名誉も結構だけれども、びつくりするくらいお  
金をだしたらどうなんだと。芥川賞が第一安い  
し、直木賞が安い。やっぱり一つの賞に三〇〇  
万とか五〇〇万ポーンと出すようにすれば、作  
品もよくなるよと言っているんですけどね。作  
品にスポンサーがいませんとね。外国の方  
と連絡を取ったり、作品を送ってもらったり、  
来てもらったり大変なお金がかかりますから。

それで、京セラの稲盛さんを存じ上げているも  
のですから、今日の世の中こうあるべきだとい  
う話をして、その最後にちらつと『今度私の名  
前で賞がつくられるというんだけど、これはひ  
じょうに恥ずかしいことだけれども、賞をつく  
るといふことはお金がかかるんだけど、そ  
ういうものの後援をしてくれという話ばかりで  
しょうな』てなことを言ったら、『いや、あな  
たのやつなら出そう』なんていうことになった。  
いちばん大もとでありながら、花咲くような  
発展をしていないのがラジオですから、これで  
花咲いてくれないことにはね。しかし、いまだ  
にラジオのひいきというか、ファンがたくさん  
いらして、ラジオはラジオなりに命を保つてお  
りますよね。

一つには、テレビというものが自分の視覚と  
いうか、目に訴えるものですから、井上靖先生  
じゃないけれど、『僕は自分の作品をテレビで  
見るのは嫌いだから、一遍も見たことがない』

と。たとえば『大関秀吉』なんかをお書きになっ  
てもね。『ところが、ラジオは聞くんだ。あれ  
は私の夢想しているものの中であらうかでも近  
いし、人物を自由に想像できるんだよ。特にそ  
の物語はなるべく人数が少ないほうがいいと思っ  
て、森繁君、君をかっていらっしゃるんだよ』と。それ  
でとうとう、井上先生や皆さんから何か賞をい  
ただきました」

——七五年の菊池寛賞ですね。

「僕は、ラジオの命というものは、都市とか  
まちが発展していくためにも、ひじょうに大事  
なものだと思えますね。これが今、広告のタワ  
ーと言っちゃ失礼だけど、広告のために流れて  
向きがある。そういうような使い方をしている  
のは、私はひじょうに遺憾ですね。残念です」

——ラジオから、今度はちよつとお芝居のほ  
うに話を移させてもらいます。先日まで帝劇で  
演つてらした「蘆火野」、来年の一月には「明  
治太平記」と、結構歴史物と言いますか、歴史  
上の人物を取り上げられることが多いような気  
がしますが、これは現代に対する何らかの問い  
かけとかがあつてのことでしょうか。

「いくら私をつら当てみたいなのがあります  
ますな。今の若い人たちに、あなたのおじいさ

んといったって、せいぜい五〇年か一〇〇年、一〇〇年から一五〇年昔の人すら、あなた方は忘れていんじゃないか。こういうことではよくないと。それで、御木本幸吉さんとか、ジョン万次郎に始まって、できるだけそういう人物を芝居でやりました。特にわれわれの祖先の近ところどころでこういう偉大な人物がいたということだけでも印象に残してもらいたいという私のかすかな希望がありますので」

——ラジオ、芝居、そしてテレビに映画、小説をお書きになったりと、いろんなジャンルで活躍ですが、いろいろな引き出しの奥底には基本的に通じる姿勢がおありになると拝察しますが。

## 感動の在り処

「私はもう引き出しのひじょうに少ない、みかん箱をくつつけたような引き出しが二つか三つあるくらいのもんです。ところが俳優なんでものは、いろんなものを見たことよって感動して心に焼きつけるとか、いろいろなことよって、たくさん引き出しを持って持つほど、表現力も豊かになるんです。

感動という言葉がでたので思い出しましたがフルトベנקラーという有名な指揮者がいます

ね。この人が、『感動』というものは、あなたの個人の中にあるものではない。感動というものは、あなたと客席との間にいま起こってきたものだ』と。僕はあまりいい言葉なので、それを壁に書いて貼ったりなんかしましたけれどもね」

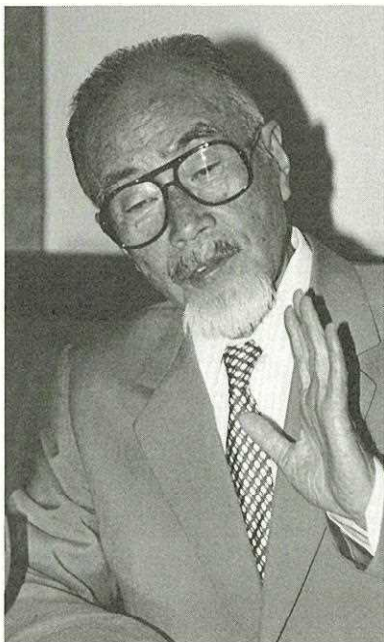
——この雑誌が全国でまちづくりにならずわっていらつしやる方々にも読んでもらっていると思うのですが、いろいろなまちに行かれて地方のまちに対する印象としてどのように感じいらつしやいますか。

「いたずらに東京の方を向いて、垂涎をたらしているのは、私は噴飯に近い話だと思わすね。この東京に住んでいて、われわれは仕事の上でひじょうに便利だからいるんですけれども、それ以外に得るところは何もないですね。私はいままですうつというところを回ってきましたが、北海道の池田町というところでワインがとれるんですね。そうしたら道路を全部ワインの色でつくっている。何とも言えないくらいいい気持になんすね。だれもないワインの道路をずうつと歩いた。そして、やることがなかなかいいんです、おおらかで。ワイン祭には大変な数の人が来るんですけれども山の上に大きな火を焚いて、牛一匹を三日か四日かけて焼く。それを見てひじょうに感動しました。町長さんがまた、すばらしい人なんです」

——時代の変化とともに、感動の質も変わってきているように感じます。やけっぱち消費の時代とも言われるように、確かに今、家は買えないけれど、ある程度のぜいたくはできる。生活水準も上がった。でも、何か空しい、ちっぽけな感動ですよね。

「何を求めて、人は都会へ都会へ集まるのか。都会へ来る人の中にはあまり感動するものはないような気がするんですよね。『みんなが行くから行こう』と」

——そうですね。ただ何かを求めて行くにしては、東京には何かがなくなつたのかもしれないね。かつてはあつたのかもしれないが。さて、明後日からヨットで一か月、日本を一周されるとか。



## 視野を広く、遠く

「休暇は毎年取っているんですけども、一か月パシッと取りたいと思っても、なかなかそうもいきませんので。ただ、今回、人間がどう生きてきたか、どんなに生きていけば一番楽しく、なおかついろんな知識を得られるのかと。それはいっぱいその辺に転がっているんですけど。それだから、ぜひそういうところへ皆さん

を案内したいと思って、日本をぐるりと一周してみようと計画したんです」

——船の上では、芝居とかそういう話はなさらないと。

「芝居のシも語さない。セリフのセも思い出さないですね。『おい、あそこの幕で何て言うかな』、『いや、そういうことは言わないで下さい。全然、わからない』と、みんなわからない。それぐらいに、たまには視野を広くして遠く

いところをずうつと見るということが、われわれの中にひじょうに必要なんじゃないでしょうか。特に、まちづくりなんかをしている方は、わが子とか孫だとか近くを見るのではなしに、何百年か後の子どもたちのためにも、われわれは何を残さなくちゃならないかということをしっかり研究して、しかる後にいい仕事を残していただきたいと思いますね」

——朝日新聞の木村梢さんとの往復書簡のなかに『会社員など定年と同時に精神まで定年するみたいに見えます。人間に終点などあろうはずはないのに』と書いてらした言葉が印象に残っております。今日は、貴重なお時間をありがとうございました。

さて、次の方をご紹介します。

「NHKでパラグライダーを教えていらした、今井通子さんのだんな様で、高橋和之さん。あの人が偉いなと思ったのは、ヒマラヤの上からとかいろんなところを飛んでる人なんだけど、伊豆のそこら辺の小さな山に登って行って『きょうは風が悪いからやめましょう』と言って、あっさり帰ってきた。NHKだろうが関係ないんだね、あの人は。自分が風が悪いと思ったときはやめる。ひょうひょうとしていいですね」

(一九九一年七月二三日)



# 楽しさのヒミツ

## 西 惇夫氏に聞く

1989年7月、北海道帯広市にオープンしたグリユック王国。「グリユック」とは、ドイツ語で幸福という意味。「本物のドイツ文化を忠実に再現したい」とおっしゃる西惇夫社長にお話しをうかがってみた。



西 惇夫氏

### 未来の子供たちのために

十勝地方の景観や産物はドイツのそれとよく似ているとか。まずは、なぜドイツなのか。その辺からお聞かせ下さい。

西「もともとこういう事業をやろうという企業テーマがありまして、その将来の事業のためにちよūdō十三年前、中央ヨーロッパとアメリカ、これを比較検討するために旅行をしました。そのときにドイツが最も印象に残りました。

というのは、ロマンチック街道、メルヘン街道を歩いたわけですが、人口二万人とか五千人という小さな町でも、その地域の文化、歴史、あるいは周りの自然とひじょうにうまく調和して、すばらしいまち並みをつくっている。これがロマンチック街道は三五〇キロ、メルヘン街道は六〇〇キロというふうに延々と続いているわけです。これはもう一企業だとか、一自治体だけの力ではそうはいかないだろう。やはり全国的にそこに住んでいる人の意識がそうならないと、そうはならないんじゃないかと。それでドイツ人は一体どうしてこういったことが国民的レベルでできるんでしょうとお話を聞いたときに、ドイツ人は日常の行動規範の中にそういう地域の伝統的な文化とか歴史、それから周りの自然というのはひじょうに貴重なものだから、われわれの未来の子供たちにしっかりと引き継いでいかなければならない。そんなことが日常の行動規範の中にあつて、まちづくりにつながっているのであらうと。それにひじょうに深く感銘を受けまして、遊びの事業、心の事業化というのが念頭にあつたものですから、そのドイツ人の行動規範、未来の子供たちのために何かを残していかなければならないという精神をお手本にしていこうというふうに考えたんですね。

それで日本に帰って、帯広のいろいろなことを調べているうちに、気候、風土、景観はもと





# "グリニツク王国"に見る

グリム童話と中世ドイツの街並み

十勝の新しい顔、鮮やかに出現

もと似ているのですが、米を除いてほとんど日本一の生産高を誇っている農業王国なんです。この基礎を築いたのが、大正十二年に模範農家として入植したドイツ人のグラバウさんという方なんです。こういった複数のドイツの方たちがここへ入植しまして、いまの近代農業の基礎を築き、いま豊かに農業王国として発展してきた。言ってみれば、いまこの農業はドイツをお手本にして今日までできた。そういう歴史的な背景もあります。ですから、何も無理してドイツ文化を伝えるということではなくて、ドイツ人の基本的な考え方をお手本にしていきたいというのがスタートですね。

## あくまで本物をめざして

建物から施設、石畳にパン、ソーセージにビールなど徹底して本物のドイツを再現なさってますが、モノだけでなく、時間や歴史までもグリニツク王国の価値として取り込んでいってやる。これらが受け入れられている背景にはいま消費者の精神も感受性もリッチになってきている証と見ていいのでしょうか。

西「これは、世の中のニーズがそういうふうになってきたということではなくて、基本的にドイツの文化を正しく、できるだけ正確に伝えるとなると、結局実物しかないわけです。われわ

れは、屋外博物館をめざしているもので、ドイツ風というのではなく、自然と本物を追求することになります。また、そうでなければドイツの紹介にならないわけです。ですから、結果的には時代のニーズに合っているのかもしれない。

当初、年間の来場者目標が三五万人でした。これがふたを開けてみると初年度が六四万人、二年度が六六万四、二〇〇人ですか。こうした人気、増加にもかかわらず、拡大的な路線はとりたくないとか。

西「そうですね。たとえば、アクセスとか宿泊施設とかの問題で、一〇〇万人とか二〇〇万人の人が吸収できるような環境基盤整備がないわけです。ないのに、ただ数字だけを追っても実態的ではない。ですから、来てくれる量に合わせただけの投資しかできないのです。で、僕はその限界があるんじゃないかと思っています。事業的に言いますとね」

———そうしますと、従業員の数とかも。

西「ええ、現在四五名くらいいますが、最小限度にとどめています。ですから、いつその六〇万人が四〇万人になってもいいように、そういう体制だけは整えて用心深くやっている。そうせざるを得ないわけです。」

それから北海道観光が定着したとは言え、急に増えたというのは、急に減る可能性だってあるわけです。ですから、その辺のところの見極めもつけなければなりません。まだまだ不透明な要素というのはひじょうにあると僕は判断しています。当初の計画がうまくいって六六万人になったということだけですから」

——現地から来ていらっしやるドイツ人の方は、どのくらいいらっしやるのですか。

西「これは九〇名ぐらいいたり、二〇名ぐらいになったり、二カ月ごとに変動があります」

### 真心によるドイツ文化の再現

——そういう従業員の方々の接遇教育とか、そういったことは何かやられていますか。

西「教育というのは特にしていません。基本的には、うちはこういう田舎の企業ですから、そんなにスマートなサービスをしてもなかなか似合わないだろう。だから、ローカルな地域の特徴としては、まず心を温かくもって、真心をもって当たるということが基本だから、自分の気持ちのなかでお客さんに対して本当に誠心誠意尽くしたかどうかということ基準にしないさ。だからスマイルだとか何とかいうことはあまり

気にしないで、真剣に、困っているお客さんがいれば本当に考えてあげる。そういうことが一番である」と

——真心によるドイツ文化の再現、そういったことがリピーターの確保にもつながっているんだと思うのですが、調査によりますと二人に一人以上は「もう一度来たい」というような報告があるそうですね。

西「ここへ来た人の七〇%ぐらいが『また来たい』と答えていますね。それからまだ来ていない人の七割が『とにかく一回は行ってみたい』と。これは道内の人ですけれどもね。それから今年の夏調査をしましたところ、道内の人で来た人の三割が二回目以上の人です。ドイツニールンドは七〇%とか八〇%とか言っていますよね。それは一〇年というキャリアがあります。うちは三回目の夏ということで、一〇年たてば三割が十割になるのかどうか、これはちよつとわかりませんが(笑)」

——来場者の九〇%が道内の人で、このうち六五%以上が十勝地方以外の人だということですが、道外の人に対しては今後どういう方向を抱いていらっしやいますか。

西「道外の方は、将来的には五〇%ぐらいにな

るんじゃないかというふうに思っています」

### 地域とのつながり

——グリユック王国が、十勝のGNPを0.3%引き上げたということが日銀釧路支店から出ていますが、地域への波及効果ということに関してはどうにお考えでしょうか。

西「われわれは自分の事業としてやったわけで、地域の活性化とか、それを第一の目標にしてやっているわけではないんですね。地域そのものというのは、それぞれのいろいろな業種の人がいる、その人たちが自分の業種に誠心誠意、一生懸命やったその結果が、その地域の発展につながってくると思っています。われわれが地域を救うとか、そんな大それた気持ちでこの事業を起こしているわけではないんですね。ただ、結果的にそういうふうの評価してくれるということは、やりがいがあるし、またさらにがんばらなきゃならないという気持ちはありますね」

——これだけ活況を呈してきて、市、あるいは住民の方の反応はいかがですか。

西「反応というより、住民の方の中に、直接的に恩恵を受けている人、たとえばホテルとかガソリンスタンドとかいろいろあると思うんです

ね。そういう人たちはやつぱり、『いいよ、がんばりなさい』という話になる。逆に『われわれには関係のないことだ』というふうな冷ややかなとらえ方もこれは当然ある。これはどこへいってもそうでしょう。われわれがやることによって、プラスになる人と、プラス・マイナス・ゼロの人と、うちぐらいの規模はまだ少ないかもしれないませんが、マイナスの人もひよっとしたら何かの関係でいるかもしれない。だから一〇〇%みんなにもろ手をあげてという業種というのはどうなんでしょうか。

また基盤整備とかそういういったものも、行政として急がなければならぬという問題が出てきますね。ただ予算が急に増えるわけじゃない。そうすると、急にたくさん来られるような施設をつくってもらってもインフラが追いついていかないとかいう問題も、役所の中にはきつとあると思うんですよ」

——— ゴールデンウィークの時なんか、ものすごい人と車の数だったようですね。そういったときに、道路を拡幅したほうがいいとか、あるいは原因者負担だとか、いろんな意見が出たんじゃないですか。

西「そうですね、そういう問題が出てくるんですね。新聞でも一方的に市の対応が悪いとか、その部分だけをとらえて言いますね。市の担当者



は『じゃ、お金をどこから出すのか。税金を上げればいいのか』とか、いろんなことを聞き直つて言いたいと思うんですけども、それは言えないわけです。それで、実態的には信号一本つけれないのが現状なんです。

そうすると、気分的には一民間企業の利益のために、何でそこだけ急がなければならないのかという問題も、僕はおそらくあるだろうと思いますし、肌で感じたんですね。だから、行け行けという人と、勝手にしろという人と。

とにかく、まだいろいろな問題を抱えていることは事実です。こういう地方都市というのは特にな」

## 世界に売りこみたい、北海道の魅力

——— 来場者の大方は、四月から十月にかけてのようですが、通年型をめざして冬期対策はどのようにお考えでしょうか。

西「冬場のマイナスを逆に出していく方法。これは言い尽くされてきていることで、なかなかそれがうまくいってないわけです。だからわれわれがそんな簡単なことでは思っていないかもしれません。ただ、いまだんたん生活レベルが上がってきて、それは日本だけじゃなくて東南アジア全体のレベルで上がってきているわけですよ。ですから、アジア全体のことを考えた観光開発というか、北海道の売りこみを、これは行政レベルでもやったほうがいいんじゃないか。せっかく来たお客さんに対しての魅力づけというのは、われわれ個々が努力をして受入体制をつくっていく。それをいろんなところにPRしたり、いろんな援助をするのは道の規模で売りこむ。それこそドイツのメルヘン街道ロマンチック街道を地域ぐるみで、行政も絡んで世界中に売りこんでいったように、北海道としての特徴性を世界に売りこんでもらいたいなという感じはしますね。

その要素というのは、この辺の農村地帯を歩いても、ドイツ、ヨーロッパでは失われてしまっ

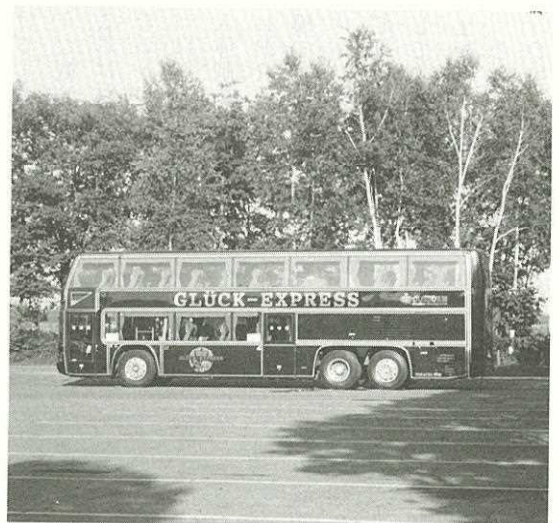
た原生植物などが残っているし、大雪山なんかの自然、それからこの狭い北海道の中にも相当多くの数の国立公園がある。こんな地域は世界中探しても珍しいんですね。たとえばドイツ人から見ても、京都・奈良に飽きたら次は北海道に行つて、日本にこういう文化があるということを知つてみたい、体験してみたいと言うんです。ですから、そういう要素をこれから引き出してPRしていく必要があると思います」

——さて、ドイツの古城「ビュッケブルク城」を完全再現なさるということで、いま建設中ですが、これは壮大な試みですね。

西「これはメルヘン街道にあるビュッケブルクという美しい町の『メルヘン街道の貴婦人』と呼ばれるお城なんです。十三世紀に建てられて今日まで、いまも伯爵一家が居城として住んでいます。そのお城の特徴として、すばらしい大祝祭ホールがあるんですが、これをそのまま復元したいと考えています。ホールの絵も厳密に再現します。そしてこの城が完成したら、ドイツから有名な演奏家を招いて演奏会を開催したいと考えています。それからワインケラーなどもつくつて、お客さん自らワインを選んでもらう。そして建物の両翼部分は、ホテルにしてヨーロッパ貴族になった体験ができるようなすばらしいものにしていきたいですね」

——その第二期工事には、十一の銀行に融資をいただけるとのことですが、当初、オープン前に地元の信用金庫が出資を決めたというのは、西さんの意気込み、熱意を大いに受けてのことなんでしょうね。

西「地元の経済界の代表として、いろんな意味で経済的な波及効果、精神的なインパクトがあるというふうに判断されたんだと思いますね。もうかる、もうからないは別にして、一つのリー



ダーシップを取ろうという意識があつて、そう考えていただいたことは、われわれとしては非常にありがたい。

それから、地元の銀行がそうであれば、われわれ全国的なレベルの銀行も応援しようということで、中央の銀行が、じゃ自分たちのいろいろなノウハウを使ってこの事業が間違いないかどうか、うまくいくにはどういうアドバイスをしたらいいか、どういう支援をしたらいいかということを提案しよう、と。そういう中央の銀行と地場の銀行が、それぞれの持ち味を生かして、いい意味で連携プレイをしていただいたというふうに受け止めています」

あくまで妥協しない

「テーマパークの枠に入らない本物の屋外博物館、真心で子供たちに伝える心の事業」というふうに感じましたが、全国いたるところでつくられているテーマパークブームについてどういった感想をお持ちですか。

西「僕らも實際上、こんな新しいものができたと聞けば見学に行ったり、その施設の人に話を聞いたりしてもいるわけです。それぞれの考え方は、どこに重点を置いているかということと決まってくると思います。当然、うちとはみんな違います。違うからそれがいいのかどうかというのは、重点の置き方、目標の設定の仕方がどうかということですから、なかなか判断がつきにくい。その地域のそれぞれの事情だとかいろいろなものがありますね。そのどれもみんな正しいと思うんです。

おそらく皆さんもそんなに自分の計画や予測通り、いい意味でも悪い意味でも、びつたりいつているものはないんじゃないかと。だから、どこかでいろいろなことを修正しながら、『ああ、こんなふうにはやっていたら、もっとお客さんが来るな』とか、考えてもいない方向にどんどん拡張していったりするところもあるでしょうね。



正面入口脇で、第2期工事が進む

たとえば、われわれの場合、お客さんに合わせるということではなく、本物をつくらうと思っただけから、最後までそれていく。だからソーセージにしてもドイツそのままの味でいく。注意しないといけないのは、作っているドイツ人も、日本人はこの味は好まないとか、こっちはもつと薄味だとか、いろいろなことをいわれると味を変えたりするんですね。それで『それはだめだよ。せつかくここへ来る人は、ドイツを旅したくて来るわけだから、まずいと言われようがこれがドイツなんだというぐらいの気持ちでいてくれ。曲

げるな』と言っているわけです。うちの考えからすれば、ドイツの海外旅行の疑似体験を、できるだけ本物と同じように味わってもらおう。だから不自由さだとか、そういったことも多少味わってもらおう。そこで妥協すると、じゃ、どれがいいんだという話になってくる。うちの役目としてはそうなんです。

テーマパークと言われているような事業そのものが、ドイツ・ネーランドに始まって、まだ十年くらいしか経っていない。だから、これがいいとか悪いとかの結論はまだ出ないし、そう言い切るのにはなかなかむづかしい。たとえば、ドイツ・ネーランドはリピーターが多いというけれども、対抗意識として、じゃドイツ・ネーランドだけをめぐって行った人が何人いるか調べたことがあるのかと。東京というものがあつて行くケースが多いところですよ。だから、この一〇%のリピーターと東京の五〇%のリピーターとどっちが価値があるか。われわれはそういうつもりで対抗意識を燃やしていかないと、なかなかファイブが湧いてこないですけどね。

今日は、素敵なドイツ体験と貴重なお話、どうもありがとうございました。

# まちづくりに「物語性」をどう生かすか

福田 敏彦

ふくだ・としひこ

電通マーケティング局・第1マーケティングディレクター室ディレクター

## 「物語マーケティング」の立場から

最近、テーマパーク、コンピュータゲーム、店、広告などの開発に際して「物語性」がキーワードのひとつになってきているが、まちづくりに関しても、物語性への関心が徐々に高まってきたようだ。筆者は、話と語り（ストーリーとその演出）を軸に発想・企画・実施される新しいマーケティング「物語マーケティング」の理論と方法を提唱してきたが、ここではその立場から、「物語性を持ったまちづくり」について述べてみたい。

物語とは、「行為や出来事につながりを持たせて（つまり話として）語る行為ないしは語られた結果」と定義することができる。物語は活字やスクリーンの世界だけでなく、社会の中のいろいろな領域に存在する。マスコミの記事や歴史も物語として語られるし、広告にも物語タイプは多い。人びとの会話の中にも物語はある。まちにも物語はいろいろなかたちで存在している。

物語は、世界を理解するためのモデルとなり、意識だけでなく無意識にも訴えかけ、ハラハラ・ワクワク・ジンなどの言葉で表現されるようなさまざまな感情を喚起し、時には普段の自分とは異なるセリフや身振り（演技）を触発し、それに接することで深い安心感や新しい発見を

もたらす。物語のこのような機能をまちづくりに生かせば、まちに魅力と個性が育ち、集客にもつなげることができるとは思わないかと思われる。

## 物語性を持ったまちづくり・

### 三つの作業プロセス

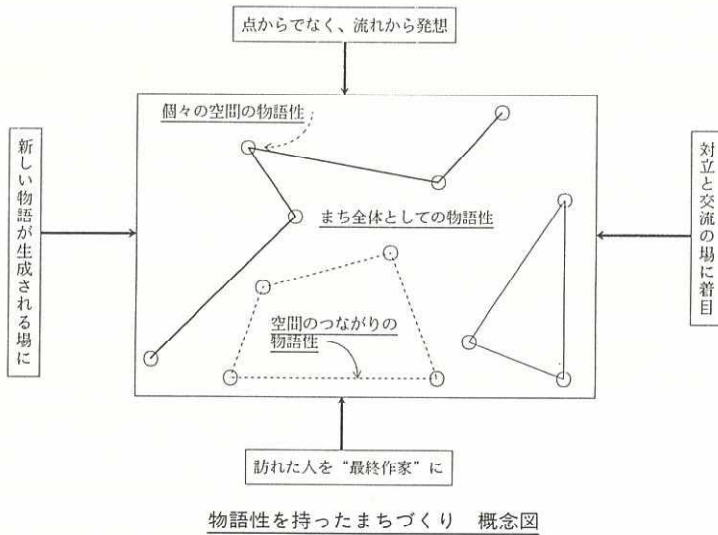
まちづくりに物語性を生かすためには、以下の三つの作業プロセスを複合的に展開する必要がある。

#### ①個々の空間における物語性の発見と創造

名所旧蹟、人物、劇場、ホール、博物館、商業空間、酒、食べ物、道、交通、公園、広場、空き地、自然などが潜在的に持っている話（ストーリー）としての面白さを見つけて、これに表現を与えて語る作業である。語るメディアは、看板、パンフレット、口頭、広報誌などいろいろなかたちが考えられる。

特にその地域に伝わる歴史や伝説は、貴重な物語資源となる。もしそれらがまったくないような新しい場所でも、建築物、イベント、自然ほかに関連して物語性を付加していくことはできる。例えば、東京・多摩センター周辺は、複合文化施設「パルテノン多摩」、テーマパーク「サンリオピューロランド」、おしゃれな商業施設などが次々と建設され、人口都市独特の物語性が生まれている。

#### ②空間のつながりにおける物語性の発見と創造



①で述べた物語性を持った空間をどのようにつなげば、あるまじり、テーマ、感情の起伏などが生じるかについて考察し、そのルートを開発する作業である。その場合、均質すぎても、雑多な要素が含まれ過ぎて、物語性は形成されない。ここでは、まちに入っているルートを選択し、そこから出るまでが、まるで良質の映画や小説に接するようにゾクゾクした気持ちを抱かせ、最終的な満足感を与えてくれるような

仕掛けづくりを行いたい。

北海道芦別市にオープンしたテーマパーク「カナディアン・ワールド」は、小説「赤毛のアン」の村の再現をねらったもの。家、駅、学校、そしてこれらを取り巻くラベンダー畑が、つながりを持ったひとつの世界を形成している。

③まち全体としての物語性の発見と創造

個々の空間とそのつながりに、その他の環境（公共的建造物、住宅街、産業など）や人物（行政、観光地の関係者、商業関係者、住民など）



熊本真人吉市の人吉城址。同市は、鎌倉時代以来の相良氏七〇〇年の歴史を背景に持つており、城と城下町と豊かな自然を有機的に結び付けて、「物語都市」づくりを推進しようとしている。

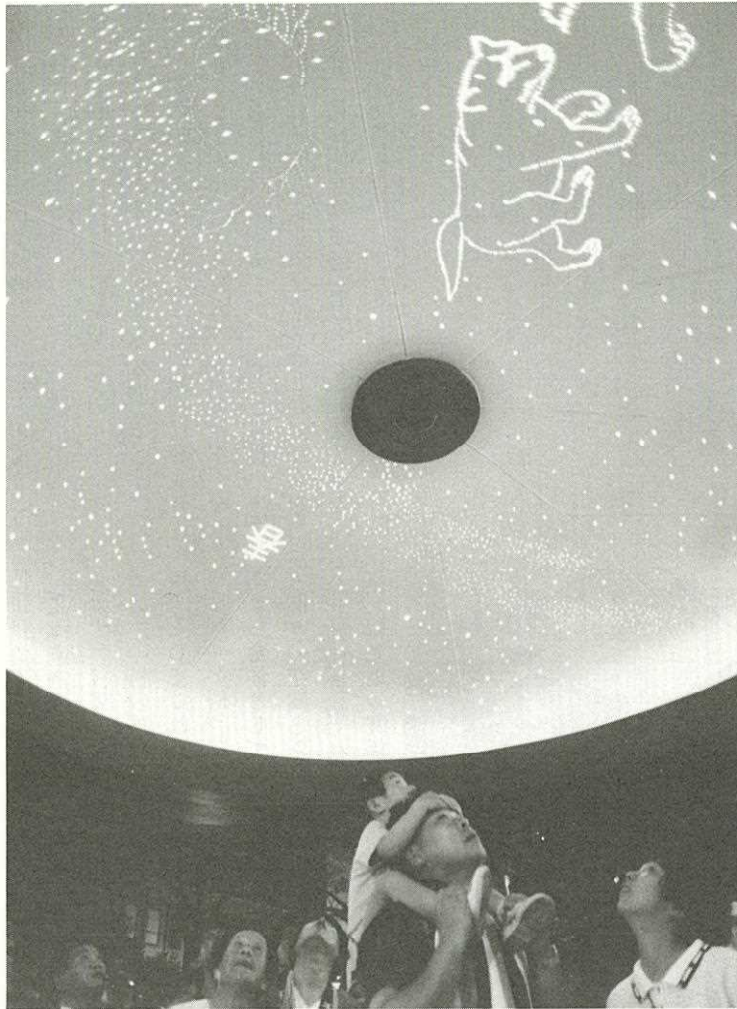
も加えて、全体としてそのまちが物語性を喚起して、まちの個性を形成するよう計画する作業である。ここでは、他のまちとの差別化戦略も考慮されなければならない。まちのアイデンティティとしての物語性の問題と言ってもよいだろう。

①③すべてに関連することだが、まちの物語性を、出版物、イベント、テレビドラマ、音楽、広告、パブリシティ、口コミ、商品などとうまく結びつけることを考えたい。それによって物語の相乗効果をあげ、より一層鮮明な印象を与えることができるはずである。

ここで述べたような物語性を実際につくりあげようとしているまちとして、熊本見人吉市があげられる。同市は、相良藩七百年の歴史を背景に持つまちだが、城址、城下町、球磨川の流れ、豊かな自然などに埋め込まれた物語性を生かすとともに、それらが全体として「物語都市人吉」を形成するようまちづくりを行おうとしている。物語性を前面に出したまちづくりとしては全国に先駆ける試みであり、展開が注目される。

#### 物語性を持ったまちづくり 四つの留意点

まちと物語性を結合する作業は、簡単なようでそうではない。思いつきで実施すると、三流の観光地によくあるような陳腐で退屈なものに



プラネタリウム「スターライトドーム」。橋をわたる人々。橋も星座も、物語性を喚起する仕掛けである。

なり、かえって人を遠ざけることにもなりかねない。それを防ぐためにも、筆者は物語に ついての科学的な研究（例えば、プロップ、ダ ンス、バルト、ブレモン、グレマス他による物 語論）の成果と実践的なマーケティングの方法 を踏まえることの有効性を強調したい。以下、 実際の計画作業で特に留意すべき点を四つあげ てみよう。

①点からでなく、流れから発想する

点よりも線、線よりも流れからの発想が豊か な物語性につながる。個々の空間でも、空間が つながったルートでも、そこには行為や出来事 の流れが存在するはずであり、その流れに注目 して、スリル、意外性、伏線、クライマックス などを仕込んでいく作業が求められる。

ここで注目したいのが、「物語の文法」につ いての研究である。物語は普通、始まりと展開 と終わりという形式を持っているが、それは、

均衡状態が不均衡状態へ移行し、そしてそれが また均衡状態へ移行するという無限の螺旋運動 の中から、いずれかの過程を切り取ったものと 考えることができる。そして、不均衡状態には、 読者・視聴者・消費者などが現在潜在的に抱え 込んでいる欠如感、過剰感、矛盾、不満、不安 などの問題点が反映されている。

従って、物語性のあるまちをつくるためには、 現在人々が抱えている不均衡状態とは何か、そ れがどのような過程を経て均衡へ導かれるか、 それがまちの構成要素とどのように関連するか について徹底的に研究することが必要となる。

②対立と交流の場に着目する

物語論では、物語の本質を対立としてとらえ る。どんな物語にも、こちら側とあちら側、善 と悪、男と女、秩序と混沌、光と闇などの対立 が根底に見られる。しかも、注目したいのは、 それが単なる対立でなく、お互いに秘かな憧れ の対象となっていることが多く、融合し交流し あう可能性を持つ点である（例えば、善に対す る悪、男に対する女）。

物語性を持ったまちづくりでは、均質と平板 を廃して、対立と交流の場に着目し、そこから ドラマをつくっていくことが重要である。その ためにも、イメージのよいもの、美しいもの、 尊敬すべきもの、正しいものに焦点を当てるだ けでなく、闇、悪、恐怖、不思議、意外性など につながる空間やエピソードを大切にしたい。



また、まちの中でも、異なるものが出会う場所は、ドラマの舞台となりうるので、特に注目すべきである。例えば、橋。橋は、異なる世界をつなぐシンボルであり、昔から人間に物語性を喚起してきた。物語の中での別の世界への旅立ちや、異なる性である男女の出会い、橋の上が多いことを思い起こそう。橋をまちづくりに生かした事例としては、瀬戸大橋開通にちなんだ倉敷市の「橋の博物館」、千葉市の段（よし）川にかかる吾富久（ごふく）橋につくられ



千葉市の段川にかかる吾富久橋とその上にできた屋外は、光ファイバーによる四季の代表的な星座を鑑賞でき

た屋外プラネタリウム「スターライトドーム」などがある。

### ③訪れた人を「最終作家」とする

まちを訪れた人々が、それをきっかけに自分で物語をつくることができ、それを人に語りたくなるようなまちづくりをめざしたい。これは、言い換えれば、まちに集まった人々を「最終作家」とするための工夫をすることである。

そのためには、まち側が完全なストーリーをつくって語り、それを人々がそのまま受けとる

という発想をいったん捨てて、人々の物語創造意欲を刺激するためにまちの関係者が何ができるか、を考えることが重要である。

具体的には、物語づくりを触発する要素（例えば、尾緒をつけやすい物語素材）をその場所や説明資料の中に仕掛けておくこと、訪れる人々をまちでの出来事の参加者にする工夫、その空間にちなんだ話題性のあるイベントを実施することなどが検討される必要がある。

④まちを、常に新しい物語が生成される場にしていく

③とも関連することだが、まちを常に新しい物語が生まれる場にしていくことが重要である。計画作業で陥りやすい過ちとして、物語を固定してしまう点があげられる。しかし、考えて欲しいのは、人間にとって一番の喜びは死んだ物語を鑑賞することではなく、物語が生成される場に立ち会うことだ、という事実である。

まちに常に物語が生成されるためには、基本となる物語を人々の想像力・創造力に耐えうるものとする、その周辺に絶えず仕掛けを行って、ヴァリアント（異本）がどんどん生まれるような工夫をすることが求められる。

物語を自己完結したものにとらえるのではなく、送り手と受け手の共同作業により常に新たに生成されるものと考え、まちづくりに限らず、今後の社会で物語性を生かすための基本的なスタンスになるのではないかと思われる。

# テーマパーク型まちづくり私論

福田 順子

ふくだ・じゅんこ

流通産業研究所研究企画部長

## テーマパーク・ブーム

■ 昨今、世はあげて「テーマパーク」である。新聞・雑誌のどこかにテーマパークという文字を目にしない日はないくらいである。久しく見なかった「ブーム」とか「ヒット商品」という言葉が久しぶりに当てはまりそうである。このニューワードに、ビジネスチャンスとばかりに飛び付いた企業や自治体や人間の数はかなりのものだろうと推測する。

とはいえ、つい二三年前まではほとんどの日本人がこの言葉を知らなかったはずだ。それが九〇年代に入って、長崎オランダ村や北九州スペースワールドを初めとする一連のテーマパーク建設ラッシュによって、この言葉はあつというまに日本中を席巻した。一九九一年版の『Imidas』では、なんと「現代産業」プロジェクト「都市」「レジャー」の四つの項目の中に、テーマパークという言葉がそれぞれ個別に取り上げられている。いずれも少しずつ異なる説明がなされている。が、そこに共通するのは、「特定のテーマで統一されている遊空間」「エンタテインメント性をもった非日常の空間」「地域活性化の目玉として地方自治体からの期待が大」といった点である。

そして、必ず登場するテーマパークの代表例として、アメリカの「デイズニールランド」と、日本でのブームのきっかけを作った「東京デ

ズニールランド」があげられている。そしてブームの追い風となったのが、「長崎オランダ村」の成功にある、というのが共通認識のようである。とすると、テーマパークは、遊園地の一種でありながら、これまでの遊園地にはなかったテーマ性を打ち出すことで、新しい魅力を付加しているところが成功要因ということだろう。

東京デイズニールランドにしろ、長崎オランダ村にしろ、経営的には黒字であるというから、訪れる人が後を断たず、それらの人々は遊戯施設を楽しむことはもちろん、遊戯施設を利用するだけでなく物品も購入し、そのために物品販売の比率も高く、それによって収益をあげる構造になっているようである。集客力がなくなりつつある商業施設や商店街にとってはなんと羨ましい限りであり、それだけに、テーマパーク型店づくりやテーマパーク型街づくりが、商業や街の新しい課題にもなっている。

## 見る＝見られる関係

■ テーマパークが成功、即ち、集客力を持ち続けられるということは、イコール、入場者が絶え間ないということになる。そこで、集う側の人間のことを少々考えてみよう。

現在の消費者のことを「演技する人」と称したのは山崎正和氏である。確かに、あらゆる人々があらゆる場面で演技しながら、もしくは演技に参加しながら生活している。新品のジーン

ズをわざわざ汚くして履いてみたり、夏の暑い日にスカーフを首や腰に巻いて歩いてみたり、前髪をわざわざ鶏冠のようにカールさせてみたり、現代人はそれぞれがそれぞれのやり方で演技しながら暮らしている。それは結局のところ、本人にとっては自己主張・自己表現の姿といえよう。

この演技するという現代的な様相が家族関係にもみられるようになってきている。今や家族とは「ある」もの「いる」ものでなくて、「家族する」ものだという話は、演技する消費者の究極の姿かもしれない。家族という一つの単位は昔から何ら変わりはないものの、その構成員たる一人一人の内的な変化は大きいようである。相変わらず多忙な父親、外へ外へと行動範囲を広げつつある母親、その中であたかも一人暮らしをしているかのような生活時間を過ごしている子供たち。そうした人々が家族という一つの単位を構成し、その義務を果たすためには「家族する」という考え方をしなければならなくなっているということであろう。演技する精神は今や家族関係においてすら必要になったのである。

繁盛し、美容院やエアロビクス教室などでさえわざわざ外からみえるようになってきている。まさしく見る「見られる関係を上手に利用した方法である」といえよう。見られることの心地よさを現代人は知っていて、見てほしい、そして他人のことを見たい、と考えているのである。

■ 上手に騙されたい

また、情報化社会の中で生きる現代人は、一方で高度な情報をたくさん持ち、物知り博士でもある。一つの事件やでき事が起きると、誰もが評論家やアナリストになれるくらい、事情通である。

したがって物知りの現代人は嘘を見抜く力もたいしたものである。時に幻惑商法やネズミ講などに騙される人もいるが、それは騙す方に一日の長があるのであって、騙す側に軍配を上げざるをえない。だからもし、どうせ作り事を見せるならば、上手に騙してほしいと思うのが現代人なのである。昔なら許してもらえた特撮映画の安っぽいセットなど、今の人はすぐに見破るから決して許してはくれない。ストーリーにしても同じである。まやかしのストーリーや幼稚な筋だてのドラマなど専門家はだしの観客や視聴者の前では簡単に結論を出されてしまう。

『馬鹿にしないでよ』というのがそうした鋭い目を持った現代人の本音なのである。だから、どうせ騙すならもっと上手に騙されたいのであ

る。騙したことがわかってもいい、上手に騙すのならそれはそれでいいじゃないか、というところであろう。

その上手に騙してくれるのが東京デイズニールンドである。東京デイズニールンドのことを現実の世界だと思つて訪れる人は誰もいないはずである。子供も大人も、あそこはデイズニールの作ったおとぎ話の世界、つまり、虚構の世界だということは百も承知でやって来る。それでも多くの人が繰り返し訪れるのは、上手に騙してくれるからであり、それがまた楽しいからである。建物や装置はお金と技術を駆使した本格的なハードを用意しているし、それらを道具や背景にして演技するスタッフ（デイズニーではホストとホステスといういい方をしている）が、物語の語り手として騙しの先導役を上手に果たして、デイズニーの物語りに付加価値をつけ、どこにもないデイズニーだけの世界を創り出し、人々を酔わせ楽しませる。

昔々、子供達にとつての騙しの世界、即ちハレの世界は、遊園地であり、デパートであり、お祭りであった。それと東京デイズニールンドとはどこがどう違うのだろうか。ちなみに遊園地を辞書で引くと「娯楽設備を整えた公園（小学館『新選国語辞典』）」と書かれてある。そうなのである。昔は娯楽設備があるだけで十分にハレの世界が演出できたのである。しかし、今は子供でも大量の情報を持っているし、幾多の体

験もしている。少々の設備程度では満足しない。だから、例え遊園地からテーマパークに名前を変え、高名なデザイナーのデザインによる見事な空間や話題をさらうようなすごい装置を作り出したとしても、ハードがじつと待っているだけでは魅力的な遊園地とはならない。初めは感激するかもしれないが、一度で十分である。

デザインやテクニクや形というハードウェアだけでは、感動を与え続けることは無理なのである。騙しの物語りのテーマと、それを演じるための台本と、騙しのテクニクを持った上手な演技者といった騙し続けるソフトウェアが必要なのである。

### 「集う」という意味

テーマパークがブームになる以前から、人が集まるとか集うという意味では、日本にはいろいろな場や行事が存在した。四季の行事などはその代表例だし、人生の節目節目で行われる行事などもそうである。花見、夏祭り・秋祭り、芋煮会、月見、彼岸、クリスマスパーティー、お正月、卒業式・入学式、結婚式、法事、誕生会、銀婚式、金婚式、受賞パーティー、等々、数え上げればきりが無い。それに、茶会、初釜、句会、各種発表会、といった趣味のパーティー等を加えると、かなりのものである。

さらに最近では、ワインのヌーボーを逸速く飲むためのパーティーとか、帰国報告会といった

ちょっとした機会を見付けては気軽にパーティーを開催する機会が増えている。これはまさにテーマパーティーである。

そういえば、パーティーの起源は日本では「座」であったといわれている。気心のしれた人達が集まって、何かをしながら時と場と心を一つにして楽しむというのが座だそうである。代表例が俳句の連句である。つまり、短句で始まり（発句）長句につなげ、それに短句が続いて再び長句で結び、三六句をひとまとまりとして作り上げるのが俳諧である。これを作るためには連衆という仲間が必要で、彼らが一つの座を作り、次々に句をつないでいるという仕組みになっている。連衆の共同作業がなければ作品は完成しない。また、共同作業の途中で座が一つのまとまりとして親密度を高めるのである。集うとは即ち、こうした座に流れる精神、共同作業、個人の目的と全体の目的とが一致する、親密度を高める、といった考え方を参加者全員が理解しなければいいものにはなりえない。

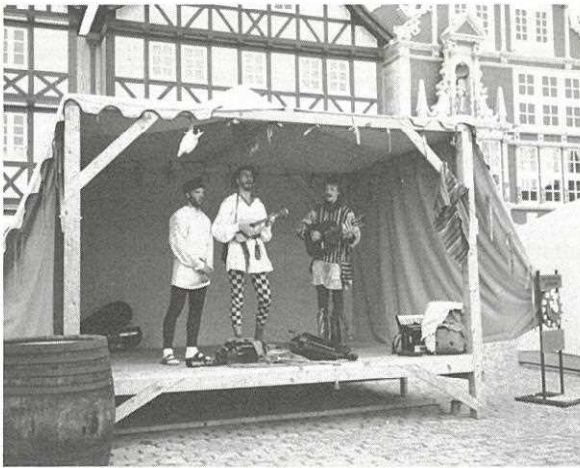
しかし、参加者の意識だけではパーティー成功の必要条件ではあっても十分条件にはなりえない。座を運営するコーディネーターの存在が重要な鍵を握るというわけである。座においては宗匠といわれる人がその場の雰囲気をつかみ、連衆が共同作業しやすいような状況を作り出す努力が必要になる。また、連衆を魅き付けるだけの強い統率力と人間的魅力を持つていなければ

ならない。さらに、場の雰囲気が陰しくなつた時には連衆を諭したり落ち着かせたり、意気消沈した時には激励する、といった心づかいによってスムーズに動いていくような能力を有していなければならぬ。パーティーでいえば、主催者でありコーディネーターがこの役割や機能を果たすわけだから、そうした能力の有無でパーティーの成否が決まるということになる。

### 経営理念・経営哲学が問われる

テーマパークにおいてこの宗匠の立場に立つのは運営主体である経営者である。そのテーマパークをどういった哲学で作り出し、どのような経営理念で運営しているのか、それがテーマパークという座の中に流れているなければならない。

上手に騙されたいという現代人の発想の裏側には、「嘘はすぐに見抜きますよ。本物以外は駄目ですよ。」という警告が込められている。経営者の哲学や理念のないテーマパークはすぐに見抜かれてしまうのである。どんなに上手に東京デイズニーランドに似て非なるものを作ったとしても騙されまい。何故なら、それは人まねにすぎないわけだし、デイズニーのような四次限か五次限の発想を持った人に勝るとも劣らないようなものを作れるわけがないことを承知しているからである。『徹底してハレの世界を、徹底して楽しませる』というデイズニーランド



グリュック王国

の哲学とその実現のためのテクノロジーの駆使とソフトの応用などを、全く同じレベルで実現することは不可能に近いことを知っているからである。

テーマにどのような心意気を込めるとか、どんな考え方で全体を運営するか、そのためにどの程度、本物を作り出すか、が重要なのである。それのないテーマパークは、連衆（入場者）の賛同をえにくいはずである。連衆はテーマパークという座を構成する重要な機能を担っているのだから。今や、経営者の心意気や考え方、即ち、経営理念や経営者の哲学が問われる時代なのである。



小布施

本号でとりあげられている『グリュック王国』は、経営者である西悼夫氏の心意気そのまま王国の素晴らしさに表現された最たる例であろう。詳細は別稿に譲るとして、彼は「子供たちの未来のために」というドイツ人の理念に感動してそれを何とか形として実現したいと考え、たった一人で、あの素晴らしい王国を創りあげたのである。まさにこれは一つのドラマである。

街づくりの例で必ず登場する湯布院や小布施の場合も、町そのものの素晴らしさはもちろんだが、それを語る時に必ず出てくるのは町づくりの理念の素晴らしさである。筆者の言葉で表現すると、湯布院の場合は『歓楽街を作るな』

であり小布施の場合は『見識を持って町並みを修景しよう』であったと思う。この心意気を実現するために、序章から最終章に至るまでの街づくりの話は、そのまま感動的な物語りである（いずれもあちこちで紹介されているので町づくりそのものの話は割愛する）。そしてそこには、宗匠の役割を持った人物が必ず登場する。湯布院であれば中谷健太郎氏や溝口薫平氏であり、小布施の場合は、宮本忠長氏や竹村猛志氏や市村次夫氏、といった人々である。彼らの存在がなければ街は完成しなかったし、何より彼らの哲学や理念がなければドラマはこれほどまでに盛り上がらなかったであろう。

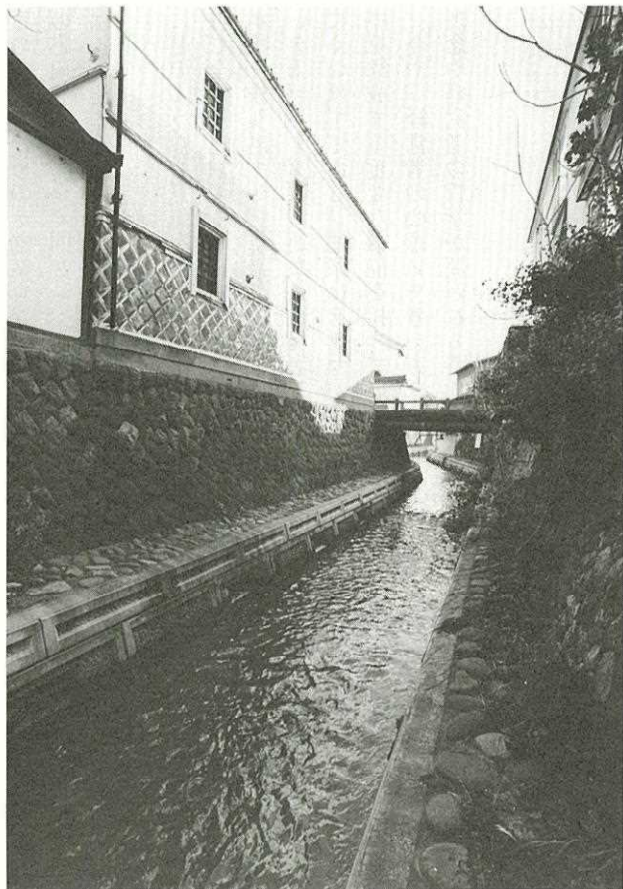
テーマパーク型の街づくりにおいても、テーマの設定には設定者（宗匠）の理念や哲学がまず先にあつて、それを込めたものがテーマとなり、そのテーマ（理念・哲学）を実現するための参加者（この場合は、関係者が連衆の役割をする）の努力の積み重ねといった一連のストーリーが重要なのである。それはそのまま、あるテーマを巡ってのいい物語りになるはずである。そして街が完成した暁には、新たな連衆として来街者が加わり、この連衆を上手に動かすことがテーマパークを閑散とさせないテクニクということになるか。その時に、既述した「見る」見られる関係「づくりや」、「上手に騙す」ための仕掛けや、「集う」ことの意味づけ、といったことをもう一度考えてもらいたい。



城下町大寄り合いのシンポジウムより

# 上田の未来像を求めて

編集部



県外の方に上田をどのように紹介しますかと聞かれて、真田幸村と答えた人が四一%、軽井沢と長野の中間と答えた人が二三%。信州の鎌倉が十二%。これは、(社)上田青年会議所城下町委員会が行った一般住民アンケートによるものである(総数八二五件)。さらに上田として城下町の部分をいつの世も残すべきだと答えた人は、九〇%にものぼる。

この三年間、(社)上田青年会議所城下町委員会では、城下町上田の新しいまちづくり、歴史が残してくれた財産を生かしたまちづくりをテーマに、さまざまな活動を行ってきた。

「城下町上田づくり」ではなく、「城下町上田のまちづくり」の大切さを感じました。城下町はひとつの観点ではありますが、すべてではありません。しかし、それぞれの地域のいい顔は大切にしたいと思います」と言う城下町委



員会委員長、畠中俊哉氏の言葉に代表される思いは、

「語ろう、考えよう、城下町上田のまちづくり／ぶつけよう熱き発想／私達のまちのひと、こころ、かたち」。このようになりたい文句のもと、さる八月二五日、認承三〇周年を迎えた(社)上田青年会議所による「城下町大寄せ」として結実し、開催された。

### 都市全体の未来像を考える

「……………まちづくりの原点は地域の資源を知ることであり、地域アイデンティティをつくり出すことなのだから、国家的英雄の真田をまちづくりの基本に据えることは誤っていない。しかし、だからといって全国の城下町を模範として都市整備を進めることは早計であり、……………」

先だって行われた檜横貞氏(日本都市センター主任研究員)の基調講演では、さらに

「上田のまちづくりは城下町問題をきっかけにはじまるが、その着地点は城下町整備ではないのかもしれない。物心両面における上田らしさを表現する中心核の形成に向けられるに違いない」とし、「城下町として上田を再構成する指向性も、上田全体の未来像まで一旦は戻ることが必要ではないのか。そして再び旧市街地に戻ってくることを期待したい」として、シンポ



ジウムに引き継がれた。

シンポジウムでは、檜横氏をコーディネーターに、パネラーとして次の方々が顔を揃えた。

金子成人氏(真田太平記) ほかの脚本家)

山浦哲雄氏(まちなみを考える会代表

東信史学会事務局長)

竹内 正氏(上田市観光協会副会長

別所観光協会会長)

和田芳典氏(上田青年会議所理事)

シンポジウムの全容は、誌面の都合上おさき、それぞれ印象に残る発言を抽出しながら、上田の未来像へ近づけてみたい。

### 資源の掘起こし、そして物語性を

和田「私たち上田青年会議所の中に城下町委員会ができてこととして三年目です。個性ある地域づくりにとってこの城下町という切り口は間違いなく貴重だということにスタートしました。

上田にも古い建物、まち並みがいくつかあります。そういう常田とか柳町といった界限に向いていきまして、そこに住む方々にいろいろなお話をうかがいました。私たちはそういうまち並みが残ればいいという発想をしていたのですが、そんな簡単なものではないということがわかった。いろんな問題を抱えている。そんなこともあって、きょうの大寄せのきっかけともなった、まちなみ寄りを四回ほど開催したりして、住民の方にもまちの財産を生かした地域づくりを問かけ、私たち自身も考え続けられました。

先に日本青年会議所で『一ロム一物語』という話が提起されました。これは、どういふことかと言うと、『一つの青年会議所の活動エリ

アの中に一つの物語をつくろう』という提案です。まちづくりのなかに物語をつくろうということです。

たまたまこの地域を考えたときに、温故知新をしてみるまでもなく、歴史が残してくれた財産として城下町がまずある。上田城趾に始まりいろんな古いまち並みが残っている。それらを核として、そこへ新しいものがくっついて、どんな物語ができていくのではないか。

ただ城下町上田というだけではなく、上小地域（上田の上と小泉の小）として広い地域の発展をにらんで考えています」

### 歴史的に見た、城下町上田の認識

山浦「城下町・上田と言えはまず上田城ですね。真田幸村の父真田昌幸が、上田城を築いたのが天正十一年、いまからざっと四〇〇年前のことです。城は千曲川支流上の断崖に築かれたもので、要塞としては一級の機能を備えています。天守閣は始めからなくて、七つのやぐらがありました。それから、三の丸をよく見ていただければ、上田城の規模の大きさがしのばれると思います。

築城とともに昌幸は、城下町の形成にも力を注ぎまして、元原村から住民を連れてきて原町をつくり、東部町から海野の住民を連れてきて

海野町をつくった。これを基幹として付属して城下町をつくっていくわけです。横町、常田町、原町に付属して柳町、紺屋町それから田町、番町、鍛冶町といった城下町をおいおいつくっていった。

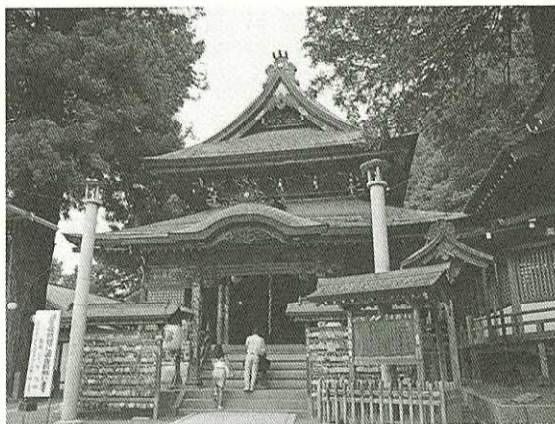
真田氏がいたのが三九年間。その次に上田に移動してきた仙石氏が上田城下町を完成したと言われています。その後、松平氏が一六〇年間いたわけですが、仙石から松平へ移るときに、有名な宝永差出張という、各村の財産や畑を全部書き出したものを出させた。それがいま、江戸時代の大事な資料の一つとなっています。

そうした城下町上田の面影は、中心街から離れた裏町か、町から少しはずれた旧北国街道の踏入、常田、柳町、紺屋町くらいしか見られなくなってきたことは寂しいことです」

### 何を核として進むのか

竹内「私は、塩田町に文化財があるということ、ひとつ対外的にアピールして、よそからどんどんお客さんを引き込んで、地域の活性化につなげたい、こういう考えで始めたのが昭和四一年。途中で何回も挫折しました。

しかし考えてみると、塩田を中心に半径四キロのコンパスで円を描きますと、文化財の二〇近くが信州の自然の中に点々と織り込まれてい



別所温泉街の中心にある「北向観音」

信州最古の木造建築  
「中尊寺薬師如来堂」↓  
(重要文化財)



る姿というのは、全国に類例がない。そこで、よし、この環境を売ろうと思っただけです。ここにストーリーをつくりあげて、歴史の縦糸と織り交ぜて全国的にアピールしようとして考えたのが『信州の鎌倉』なんです。私の人生の半分



は、そこらぶつ込んできました。おかげさまで今年の子想としては大体一〇万の見込みがあります。

そんななかで私は考えたんです。上田は城下町といっても、やっぱり城あつての城下町じゃないのか。上田には、上田城というすばらしい核があるじゃないか。何でこれを復元して、対外的にアピールしないのかと。外部の注目を集めないと、なかなか地域の活性化にはつながらないと思うんです。ですから上田城の復元という大きい核をつくって、その流れのなかで、城下町も取り上げる。そうすれば、おのずから新しい発想も生まれてくるんじゃないかと」

### 質の高い、物語の設定を

金子「上田に対する印象は、穏やかなんです。

穏やかというのは、つまり豊かという匂いがあるんです。豊かなのにこうやってまちづくりをやるうとしていらつしやるのには何があるのだろうと、いまはまだはつきりわからないんです。たとえば北海道とか沖繩なんかの離島の青年団の人たちが一生懸命やるというのはすごくわかるんです。人がいないから、人を呼ぶために。人というのは、観光客という意味ではなくて、住む人。そこで生まれた連中が出ていけないような何かをつくらなきゃというので一

生懸命やっている。それははつきりわかるんですけど、いまこの上田は、気候もいいし、野菜とか果物とか裏のほうでたわわに実っている。そういうまちで、いったい何を、なぜまちづくりを一生懸命になっていらつしやるのか、その辺がまだつかみきれないんです。

竹内さんのおつしやるのは、テレビという視聴率の高いものをとろうという、それはもちろん大事なことです。僕らがこういうまちづくりをするときに思うのは質なんです。視聴率というのは数字であらわされるんですけども、その人がドラマを見て満足したかどうかというのは絶対出ないんです。ですから、人がたくさん来るといふことよりも、その土地でいかに満足するか、安らぐかとか、僕のいまの立場としてはそつちの方を言いたいです。それは上田に限らず、よその土地に行ってもそれを必ず言うんです。すると、その土地の人は『人が来なくてもいいのか』と言われますけど、そうじゃないんです。質がないと、来ても一回しか来ませんよということを言うんです。高速道路とか幹線道路のドライブインにおみやげがありますね。あそこにはつと立ち寄る観光バスみたいなものなので、それじゃ、ちよつといけないんじゃないかという気が、ちよつとしていられるんです。それと、たとえば上田城をつくるとおつしやつたけれども、さつきちよつと歩いてみたんですが、本丸がないでしょう。僕はないほうが、む

しろドラママチックだと思っただすよ。つまり、あそこに立った時に、ここにかつてこういうものがあつたなとしのぶ、そういう質のほうがいいんじゃないか。みんな揃えると、たとえばほかの城下町と上田がどう違うか。違う何かがあれば、それが強みだと思っただす。もし本丸をつくるんだつたら、本式に昔ながらの木造でやるとか。コンクリートでやるんだつたら僕はやらないほうがいいと思います。

それから聞いたところによると、新幹線が通り、駅ができるとか。皆さん、お乗りになつてからおわかりだと思っただす、新幹線の駅つて、形が全部一緒なんです。名前がついてなければどこの駅かわからない。そういうものじゃなく、ほかの駅とは違いますよという上田の違つた駅舎をつくるのか、そういう心意気がないとユニークとかドラママチックなものを出てこないんじゃないかという気がします。

僕らの仕事でもそうなんですけれども、前にあつた作品を真似た時点で、すでに負けなんです。まちづくりもそういうことだと思っただす。『ここならでは』というものが無い限りはユニークなまちづくりはできないと思う。ほかのまちがどうあれ、自分たちはこうだというのが絶対あるはずだす。それを見つけないことが大事だと思っただす。形とか器をつくるということでもないような気がするんです。

あと、ここは山あり、川あり、そういう恵ま

れた自然をどう取り込むか。たとえば、こういうまちづくりをしようとか、加工してやったところって大体失敗する。つまり内側からにじみ出てやったことが結果的に評価されたというものが長続きしています。それから、『ふるさと創生』の一億円。お金をあげるからなにかやれ式のもので大体だめですね、押付けてすから。一、二年は全然評価されないけど、長年やっているとその町の文化となり、核になっているという結果はいくつもあります。そういうものを見つけることだという気がします」

### プラス志向をもって、ロマンとドラマを

檜横「いろいろお話をうかがっていて私がおもしろかったのは、やっぱりドラマチックということ。ドラマチックでロマンチック。都市というものは、いわばストレスのかたまりでもありませんし、もつと心を通わせるソフトウェアが必要となる。そういうものをいま上田だけじゃなく、全国的につくっていくかなければいけないだろうと思います。そういうときに池田さん（会場の質問者）の言われたプラス志向というのは、とても大事だと思います。そして上小地域の中にはたくさんいいものがあるのにどうしてつくられないんだらうという思い。

たとえば郷土愛とか思い入れというのは、



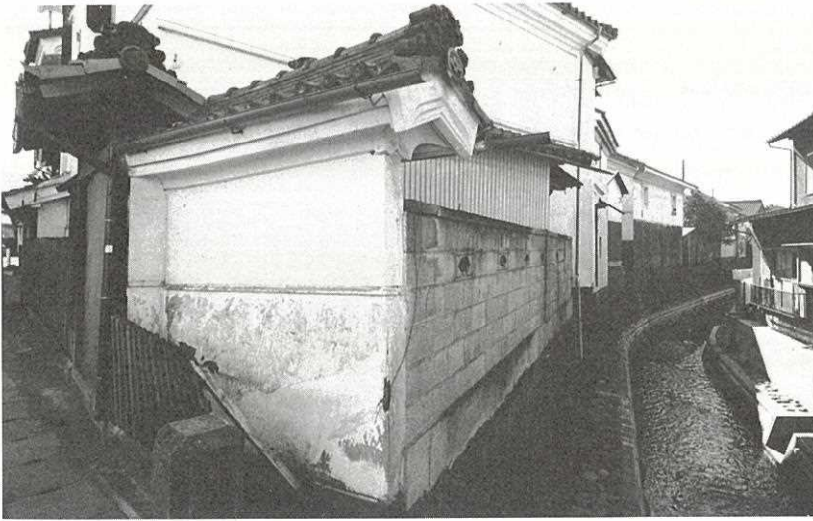
私の経験からしても意外と照れもあるし、恥ずかしさもあるものなんです。私はたまたまよその人間ですから、上田に来て、いま頭に浮かんだことをべらべらしゃべっていますが、地元にいると結構しゃべれないのですよ。そういう点では、周りともつとつながり、ネットワークをもつとつくっていくことも必要だと思います。たとえば滋賀県安土町では、信長ゆかりの全国十七市町村が交流する『信長サミット』を

やったりしています。とにかくいろんなかわりてネットワークをつくっていくというやり方をしながら、語り合える場をたくさんつくっていくという一つの方向。プラス志向をもってロマンとドラマを見つけないことを徹底してやっていけることを期待します。

もう一点、きょうみたいな『大寄り合い』というのはなかなかいい言葉だと思います。寄り合いというのは、地域の人たちがそれぞれ主体性をもって小さく集まり、そして何かやっていると決めごとをする昔からのやり方だと思うのですが、そこには特別、上からの権力なんかもあるわけじゃない。そういう人たちがいま集まってきて大寄り合いにまです。こういう指向性でできるだけ発展させてもらいたいですね。

上田には確かに資源がある。歴史がある。文化がある。だから重いでしょう。重いからあまり急がないで、そのネットワークを組みながらこの仕組みを大事にしてもらうということをお聞きしよう、ひとこと言いたかったことです。

そして金子さんも言われた『ふるさと創生』の一億円問題。押しつけがましかったという話もあるんですが、基本的には日本のまちづくりというのは、これまでは中央政府で決めて、省庁で決めて、県に下りて、予算がついてはじめて住民が始動するという仕組みでした。でも案外、右回りが一つの方向だとすれば、逆回りをしながらまちづくりをされてきました。皆さん

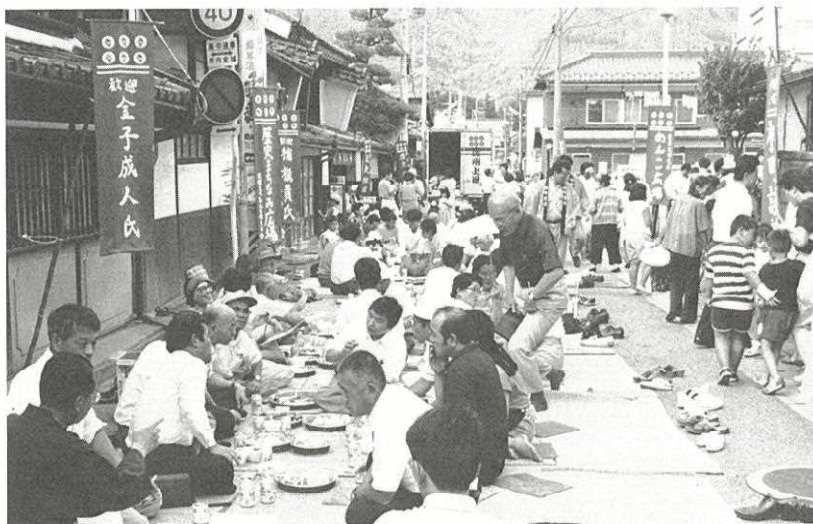


方のような人たちが自分自身に素直に、まちをよくしよう、プラス志向していこうという動きをより強めていくとすれば、時計回りになるに違いないわけです。そうすれば行政なんかの機能も出てくるだろうし、そこで初めて意味のあるハードウェアもできると思います」



「上田の個性って何だろう?」。そういう疑問符からはじまった寄り合い、大寄り合いは、上田の未来像を模索するひとつのきっかけとして、ひとまず幕を下ろし、その熱気は「歴史まちなみ広場」の柳町談義へと持ち越された。

「うそいつわりのない歴史がこの上田にはあるはず。それをまちの一部でもいいから、



必ず私たちの子供、孫にも伝えていけるスペースを持ちたい、形をとりたいのです」

最後に、そう訴えかけた尾澤英夫氏（三〇周年実行委員長）の言葉が印象に残る。上田のまちづくりにとって、また上田青年会議所にとってもこれからが本当の正念場かもしれない。

（文責・編集部）

# 都市の磁場喪失

～都市集客論再考～

檜 貢

## 都心願望

先頃、長野県の上田市を訪れ、市街地をある程度しっかり見る機会をもった。この町は上田盆地の中に形成された人口約十二万の歴史都市であり、長野県下で長野市、松本市に次ぐ三番目の規模の典型的な地方中核都市である。この町の旧市街地は十六世紀以来真田氏、仙石氏、松平氏と城主が変わりながらも城下町として維持され、明治以降にはその町並を原型に東信濃地域の中心地として拡大した。最近では、浅間テクノポリスの中心都市に位置づけられ、上田リサーチパーク等の整備が計画されている。

このような歴史の町でも、今日話題になってきているのは都心性の復活である。直接的には上田の城址やその周辺の街区整備の必要性が提起されているのだが、その背景にはこの地点に上田市民や外来客が従来のように集まらなくなったことのためのようだ。

この都心性復活の願望は名古屋市や広島市のような大都市でも耳にしたことがある。

名古屋も城下町であり、人口二百十万人の大都市なのに中心性の乏しさが話題になっている。この町は戦後の都市整備において道路を重視し、クルマ社会と親和する機能を備える都市として名高いけれども、住民には都市としての拠点イメージがもてなくなっているのだという。とくに、都市に人間性をいかにして復活させ得るか

というテーマに対しては弱いようだ。もともと、二年前に行われた名古屋デザイン博覧会は都市文化の創造と拠点形成をもそのターゲットにしたものであった。

広島もまた城下町であり、人口で百万を超えている大都市だが、ここでも中心性の乏しさが問題として取り上げられている。これまで都心部にあった大学を隣接する東広島市に移転させ、市内にある空港まで移転させることが決まってきたが、ここへきて国土の多極集積時代に対応した拠点づくりが改めて模索され始めている。

とくに、これからの時代には都市が産業や文化を創造するのだといった問題意識が重要になるけれども、そこでは都市の特性を明確にすることと同時に物心両面での拠点が求められるわけである。大都市の都心部は、名古屋や広島に限られないことだが地価も高く、オフィスビル等が林立しているなど、まさに人間性、界限性を失ってきた結果ともいえよう。

また、大都市周辺の地域でも都心願望は強いものがある。名古屋からJR中央西線で二十分位の位置に春日井市という約二十七万の都市がある。ここは高蔵寺ニュータウンのある地域として有名なくらいだから、現在は名古屋のベッドタウンそのものである。このような周辺部の典型的な地域であっても、最近では都心願望が強くなっている。

昨年六月には市内で最も高い建造物として市庁舎がシンボル性を込めて建設され、市内を展望できる場所として市民を集めているが、都心形成のインパクトをねらったものの一つであった。そして、政策上は中心商店街の整備や機能の再構築等が志向される等、市民の物心両面における心理的、物的拠点づくりが始まっている。

### 居住スタイルの混乱

このような都心願望をあざ笑うかのように、現実とはそれと全く逆の動きが起こっている。その一つはロードサイド店舗の広がりにみることができる。今日、どこの都市へ行っても、周辺の国道道沿いにパチンコ屋、家具店、家電製品、スキー用品、書籍等売る店舗が立ち並んでいる。しかも広い駐車場つきであって、買い物目的が事前に明確でありさえすれば非常に効率の良いものだ。このような現象の生じる基本的理由として、クルマ社会の進行、消費の高度化指向、そして商業従事者のライフスタイルのサラリーマン化の三つを上げることができよう。

まず第一のクルマ社会の進行についてだが、今日の状況は都市活動の道具（技術）としてクルマを導入した段階には想定されていないものであった。その現実の数量や実際の使われ方などのようなプランナーの想定イメージをも超えたものであって、すでにクルマは生活の必需品になってしまっているわけだ。

元来の都市の拠点や中心商店街の構造は、クルマの利用を前提にしていなかったのだから、都市の基本構造をそのままにしての個別的対応がどのように重ねられたとしても、結果的にそこからますます人を遠ざけることになった。

第二は消費の高度化指向への対応である。現代の消費はその選択性と消費行動そのものの多様化を指向している。ロードサイド店舗はかつての消費空間としてのデパートや商店街に比べてと遊、住、職等のミックスやスマッチ等を楽しみの可能な空間であって、様々なニーズに応える実験のできる地帯だと認識されており、しかも実践されている。

三つ目の商業従事者のライフスタイルのサラリーマン化であるが、これについては少々説明を要する。商業従事者が商人と言われた時代には、商品の購買者の欲求行動に対応させて生活していくことを基本としており、まさに不定時性こそが彼らの一般的な生活であり、現代サラリーマンの特徴としての定時性、行動の主体性、自由性のいわば対極に位置するものであった。つまり、彼らは住居併用店舗に住んで、供給する商品の媒体として生活しようとしたわけだ。米屋らしく、酒屋らしく、呉服屋らしく、といった生活のスタイルがあったわけである。

ところが、商業従事者からこの種のライフスタイルは急速に失われていき、サラリーマンと同じようなものになりつつある。たとえば、商

業従事者も庭つき一戸建てに住んで店舗へ通勤し、自由で豊かな生活をエンジョイしたいのである。昨年二月に実施された日本労使関係研究協会による商店街の経営基盤に関する調査によれば、これからは従業員の時短対応が重要であり、営業時間の延長等は利益増加に結び付かないという結果も出ている。

このように、広い意味での居住スタイルの混乱によって、現代の都市の磁場はその方向を失ってしまっているようだ。

### テーマの洪水

こういった動向をしりぬに、もう一つの新しい都市磁場の創造の試みが各地で始まっている。それはテーマ・パークである。

テーマ・パークの代表格は東京ディズニーランドと長崎オランダ村だが、その成功により、わが国でも都市およびその周辺地域における社会資本のメニューに加わったのではないかと思わせられるほど、各地で取り組まれるようになってきた。

北九州市のスペースワールド、東京都多摩市のピューロランドは昨年から開業を始めているし、広島県呉市のポートランドや長崎県佐世保市のハウステンボス（第二長崎オランダ村）をはじめ、多くの地域でテーマ・パーク設置準備は進められている。計画段階のものは全国で一三三、開園しているものは約三〇だといわれて

いる。

テーマ・パークはその機能上の枠組みは定まっていけないが、一定の社会的、文化的テーマの下で遊園等の施設に人を集め、これからの都市や社会の機能と新しい生活のスタイルの提案を行うものであって、集客性、遊客性が重視されるものだ。これまでの一般的な都市は、その未来性よりも現実性が重視され、雇用や教育の機会、あるいは安全に住むための空間であると、認識されてきたなかで、そこで人規模に集客するテーマ・パークは都市の見方と政策に大変なインパクトを与えているはずである。

テーマパークは、そのテーマがどういうものであれ、人々をそこに引き込むものでなければならぬし、繰り返し来訪させていくほどの魅力をもつものでなければならぬのだ。

東京ディズニーランドは成功したテーマ・パークだが、年間一千六百万人もの来場者があるという。この場所はすでに人口四・五万人の都市だといってよい。そこに存在しないのは市役所くらいで、路地にはそれに代わって親切な案内人や清潔な掃除人がいるわけである。また、ここでは人とクルマも共存しており、クルマは人々が楽しむ空間の外側(駐車場)に列をなして整然と待機させられているのだ。

このようにして、都市の周辺や大規模跡地に新しい磁場を持つテーマ・パークが立地し、結果的に都市磁場を拡散させ始めている。

### 郊外と都心の集客競争

このような都市構造の変化に、大型小売店の立地規制の変動が加わった。その引金は日米構造協議において大型小売店の出店調整等は貿易上の非関税障壁にあたるということで、その手続きの迅速性、透明性等が求められたことであった。その結果、昨年五月に大規模小売店舗法の運用基準が変わり、出店調整期間の短縮化とともに新規大規模店の進出を制限していた出店抑制地域の廃止が決められた。次いで今年の五月には大規模小売店舗法そのものが改正され、新規の出店を事実上抑制していたといわれる商調協制度が廃止されるとともに、出店調整(審査)期間が再短縮された。また、自治体で独自に上乘せ規制を抑制する規定等をおいたのである。

なお、この法改正の施行は来年初頭とみられる。この動きは商業の世界において競争条件を阻害する条件を排除することであって、大型小売店舗の立地ラッシュが心配された。現在の段階では全国の出店の届け出は運用基準緩和の前年より約二倍程度になったとはいえ、落ち着きをみせている。それでも、この立地規制の緩和は郊外と都心の商業施設の立地と集客の競争の本格的開始を告げたといってもよい。郊外部では、すでにロードサイドの単一業種の店舗では集客力に限界があるとの認識があり、様々な業種・業態の複合店や住民のライフスタイルを先取り

したホームセンター方式の立地等が増えている。

都心部では地域の中心としての機能を再び獲得する意欲も見せ始めた。大型SCの役割の見直し、文化学習施設の立地、さらに新しい業態の店舗を積極的に誘致する動きもある。たとえば、中心商店街から脱出した店舗の用地を商工会議所が譲り受けて、新規商業従事者に半年間無料でその用地を貸与することで新しい商店街の芽を育てようというものがある。また、障害者の作品の木工品等を扱う常設店を商店街の無償場所提供で出店させるものも注目されている。求められる都市論の構築

このようにして、都市の磁場は都心と郊外に引き裂かれ、さらにテーマパークの開設はもう一つの磁場をつくり出していく。また、クルマの次に都市を侵略する情報技術はこれらの動きを抑制する方向で働くであろうか、それと促進する方向で働くであろうか。このまま放置していれば、都市は文化を生み出す装置だと信じるものには悲観的な分裂状況になるであろう。

このような都市磁場の喪失という認識に立てば、今日求められているのは、都市の未来像を的確につかんだ上で、物心両面での中心性とそれに相関する磁場の配列を本格的に検討されるということになる。この作業は都市論の再構築であり、その成果は失われつつある都心の再発見の道標になるはずである。

(日本都市センター主任研究員)

我々が国全体としての経済力に見合った豊かさやゆとりを実感できない原因のひとつに、住宅・社会資本の整備の遅れがあるといわれて久しい。加えて、近年では、あいかわらず深刻な東京一極集中により、東京圏、地方圏それぞれにおいて、生活の豊かさやゆとりが感じられない状況が増幅されてきている。

本年7月に発表された平成3年「国土建設の現況」、いわゆる建設白書においては、こうした状況を踏まえ、第一に、公共投資基本計画を手掛かりに住む側、暮らす側の視点から見た「二〇〇〇年の生活空間」の姿を、第二に、平成2年国勢調査速報を手掛かりにその実現の妨げとなる東京一極集中の実態を明らかにしている。

本書は、この平成3年建設白書の内容を、図表を中心に編集し直したものである。総説部分では、毎年時流に沿ったテーマのもとで建設行政に限らない幅広い分析は、このバックデータがすべて掲載されており、分析内容がわかりやすく、さらに調査・分析資料等として活用する場合に利用しやすくなっている。

日米構造協議、これを受けた公共投資基本計画予算の生活関連枠等を通じて注目されている建設行政の取り組み状況に触れるには、丁度いい一冊である。

(あ)



建設省大臣官房政策課 監修  
(社)建設広報協議会 発行

## 「'91建設白書早わかり」

—生活空間の新時代を目指して—

大成出版社 1,600円

本書は、John Galbraith, A Short History of Financial ; Euphoria Financial Genius is Before the Fallの邦訳である。18世紀のフランスにおけるジョン・ローの事件、同じく18世紀のイギリスにおけるサウスシー・バブル、そして1929年の大恐慌、といった大きな投機とその崩壊をめぐる歴史上のごたごたした事件について、投機が陶酔的・熱病的な楽観ムードを伴って展開したあげく、バブルが破裂するにも似て急激に崩壊し、悲惨な結末に終わる、という事情について、面白く物語風に記述する。そして、投機という現象に共通する諸要因をえぐり出し、そこから「歴史の教訓」を導き出している。

この本の内容の少なくとも半分は歴史上の出来事に関する物語であって、読んでいて楽しく、面白い。思わずふき出してしまう箇所もある。もちろん、ガルブレイスは単に興味本位で本書を書いたわけではない。著書ならではの思わせる鋭い批判のメスを振るって、投機というものの本質を分析している。そして、読者に対し、投機とはどういうものであるかをよく認識し、バブルの破裂の犠牲となつて損をすることのないよう、警告と注意を与えている。ガルブレイス自身「警告の書とするためにこの本を書いた」と述べている。

(江)



ジョン・K・ガルブレイス 著  
鈴木 哲太郎 訳

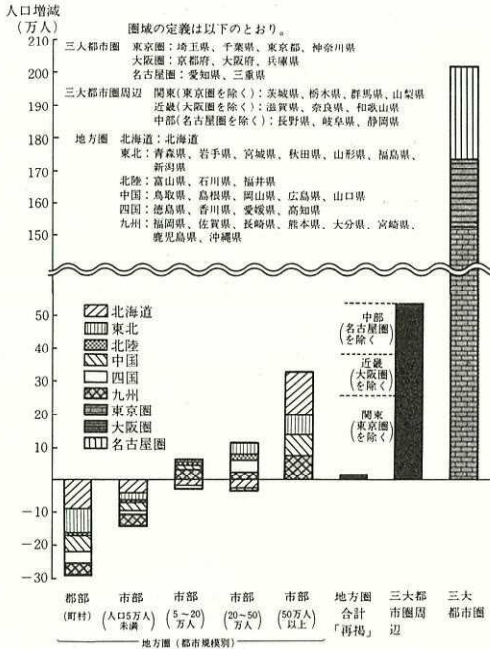
## 「バブルの物語」

暴落の前に天才がひる

ダイヤモンド社 1,600円

～平成3年建設白書から～

図 地方の人口減少の広がり と東京一極集中の進行



注) 1. 建設省資料  
 2. 原データ：総務庁「平成2年 国勢調査速報」  
 3. 昭和60年から平成2年までの都市規模(昭和60年の人口)別、圏域別人口増減である。

平成3年建設白書の主題

去る七月に公表された建設白書は、二つの大きなテーマを中心として建設行政全体の流れをまとめている。一つは二〇〇〇年の生活空間、もう一つは深刻化する東京一極集中の是正である。

「二〇〇〇年には生活空間先進国の仲間入り」

二〇〇〇年の生活空間を第一のテーマとしている背景には、昨年決定された「公共投資基本計画」がある。同計画の着実な実施により、二〇〇〇年には、我が国の住宅・社会資本

の整備水準も欧米諸国に比べてそれほど遜色のない水準に達し、生活空間先進国の仲間入りを果たすことが期待できる。白書では、今後二十一世紀に向けた住宅・社会資本の計画的な整備により、我々の生活空間がどのように改善されていくかというビジョンを、生活者の視点からわかりやすく示している。

「東京一極集中の是正は新たな生活空間創造の大前提」

一方、昨年末に発表された平成二年国勢調査速報の結果は、この五年

間で十八の道府県で人口が減少する中、全国の人口増の六割相当を東京圏が収容し、人口五〇万人以上の地方中枢都市等の成長が辛うじて地方圏全体の人口を支えているなど、東京一極集中と地方の人口減少の深刻さを改めて認識させるものである(図)。今後ともこうした人口動向が続けば、東京圏では過密の一層の進行、地方ではコミュニティの崩壊さえ懸念される。住宅・社会資本の整備により「二〇〇〇年の生活空間」を創造していくためには、東京一極集中の是正は避けて通れない最も基本的な課題である。

こうした認識のもと、白書では、東京と地方の人口動向、生活条件の分析を詳細に行い、住む側、暮らす側の視点からその問題点を掘り下げている。白書としての性格上、具体的な政策提言にまでは充分踏み込んでいないが、こうした分析による客観的かつ平易な情報提供自体も、東京圏からの人口、諸機能の分散の一つの武器になるものと思われる。

以下、この二つの中心テーマに関する分析の内、白書ならではのユニークな分析が展開された「東京一極集中」に関連するものいくつかを紹介することとする。



東京に押し寄せる青年層

東京一極集中の大きな要因に、若者の東京への流入、集中がある。その実態を世代（年齢）別に明らかにするとともに、こうした傾向にある程度の変化が生じているのを見ることとする。

【二〇歳前半での東京集中に変化なし】

昭和一〇年代前半生まれ、二〇年代前半生まれ及び三〇年代前半生まれの三世代それぞれについて、東京圏への人口集中度を五年ごとに見ると、いずれの世代も、二〇歳代前半にかけて東京圏への著しい集中を示している（図）。ピーク時における集

中度は、男女とも昭和二〇年代前半生まれが最も高い（男で約三人に一人、女で約四人に一人）が、昭和三〇年代前半生まれの世代でも大差はなく、若者、特に、男性の東京圏集中という傾向全体には大きな変化は見られない。

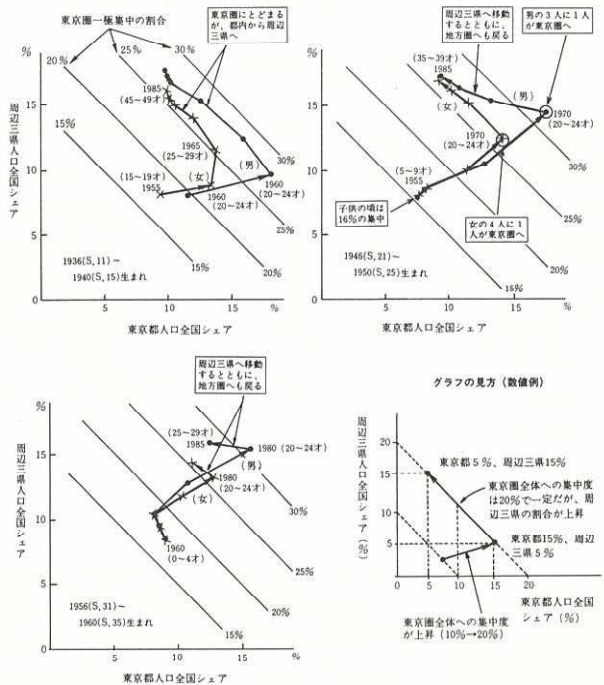
【二〇歳後半以降からの分散の動き】

世代間で最も注目すべき変化は、二〇歳代前半で東京圏への集中を開始した後の動きである。昭和一〇年代前半生まれの世代では、男女によって程度の差はあるが、二〇歳代後半あるいは三〇歳代前半においても集中度を高めており、その後も集中度

【東京都から周辺三県へ】

次に、東京圏を東京都と埼玉、千葉及び神奈川の周辺三県に分けて見ると、二〇歳代前半にかけては東京都への集中傾向が強く、年齢を重ねるなかで周辺三県へとシフトしていく様子がうかがえる（図での反時計回りの動き）。また、東京都への集中傾向が最も強い二〇歳代前半でも、新しい世代ほど周辺三県にも住む傾向が強いが、これは、東京都の過密状況の進行、家賃の上昇、周辺三県との間の放射状交通の整備等を反映しているものと考えられる。

図 若者の東京圏への集中と20歳代後半以降での分散化の兆し

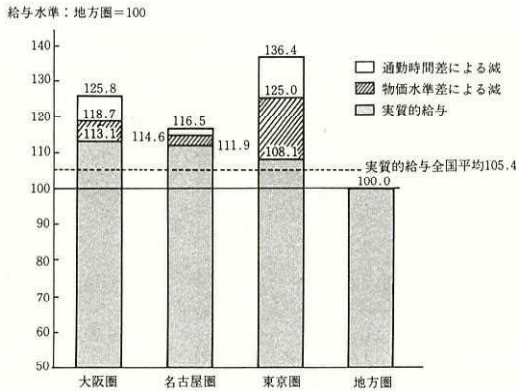


注) 1. 建設省資料  
2. 原データ：総務庁「国勢調査」  
3. 周辺三県とは、神奈川県、埼玉県、千葉県である。

かあまり下がっていない。ところが、昭和二〇年代前半生まれの世代になると、男性では二〇歳代後半以降かなり顕著に集中度が低下しており、女性についても集中度の高まりは見られない。さらに、昭和三〇年代前半生まれになると、統計上二〇歳代後半の動きまでしか把握できないが、男女とも集中度が低下している。

このように二〇歳代前半で東京圏への著しい集中を示しつつも、時代が進むにつれ、二〇歳代後半以降で人口の分散が進む傾向がある程度見られる。今後は、東京圏への人口の集中を抑制することに加え、分散化傾向を強化させていくための方策の重要性も一層高まっていくと考えられる。

実質的には全国並みの東京圏の給与水準



	大阪圏	名古屋圏	東京圏	地方圏
現金給与額：円/時間 (円/年間)	2,102 (4,345,489)	1,947 (4,178,418)	2,281 (4,699,538)	1,672 (3,601,892)
通勤時間中位値：分	36.0	25.7	45.2	20.8
家賃：円	34,335	26,591	53,429	24,332
消費費物価指数差指数 (家賃を除く)：指数(地方圏=100)	102.8	101.9	105.3	100.0
実質的な労働・通勤時間あたり現金 給与額：指数	113.1	111.9	108.1	100.0

- 注) 1. 建設省資料  
2. 原データ：労働省「毎月勤労統計調査月報」、総務庁「住宅統計調査」、「消費者物価指数年報」  
3. 1988年における比較である。  
4. 住宅延べ面積44.3㎡、居住室数16.5畳の借家(全国平均)に住む場合である。  
5. 有業人員1人の世帯を仮定して計算したものである。  
6. 現金給与額の中には、通勤手当、住居手当、調整手当等が含まれる。  
7. 圏域の定義については、前図参照。

見かけ倒しの東京ライフ

所得階層分布に地域ごとの差異はあるものの、総じていえば、東京圏をはじめとする大都市圏の所得は、地方圏に比較して高く、一方、通勤時間、物価などの面は、地方圏の方が恵まれている。通勤時間は、労働時間そのものに加え、所得を得るための実質的拘束時間の長短を決めるものであり、また、物価水準は、所得の実質的購買力を左右するものである。所得、通勤時間、物価水準については、これまで個々に地域間の比較なども行われてきたが、ここで

は、これらの指標の相互関係を考慮し、総合的な比較を試みてみよう。【実質的給与第一位は大阪圏。東京圏はほぼ全国水準まで低下。】毎月勤労統計調査により、勤労者の労働時間当たり平均現金給与額を比較すると、東京圏は、地方圏の四割近く高い水準にあり、大阪圏、名古屋圏も、それぞれ地方圏の水準を相当上回っている(図)。

次に、通勤時間を考慮し、労働時間と通勤時間の合計で割った時間当たり給与額を見ると、地域間の順位

は変わらないものの、その格差はかなり縮小し、例えば、東京圏の水準は、地方圏の一・二五倍程度まで低下する。さらに、ここで全国平均並みの広さの借家(住宅延べ面積四四・三㎡、居住室数一六・五畳)に住む場合を想定して、家賃及びその他の物価水準をも考慮した実質的な労働・通勤時間当たり給与額を求めると、地域間の格差がさらに縮小すると同時に、地域間の順位も変動し、大阪圏、名古屋圏がそれぞれ地方圏の一〇%強、東京圏は、地方圏を八%程度上回るに過ぎない水準にまで低下する。

このように、通勤時間、物価水準の差異を織り込んだ実質的な給与水準を比較すると、地域間の見かけ上の格差は著しく縮小することがわかる。

さらに、都心へ通勤する勤労者を対象として同様の分析を行うと、民間の比較的新しいマンションを借りる場合には、全国平均並みの実質的給与を確保することは非常に難しいということがわかる。したがって、公的住宅や社宅といった条件に恵まれず、新たに東京で働き、住宅を借りようとする場合には、少々高い給与を得る機会があるとしても、それを実質上の経済的優位性に結び付けることは容易ではない。

一極集中限界モデル

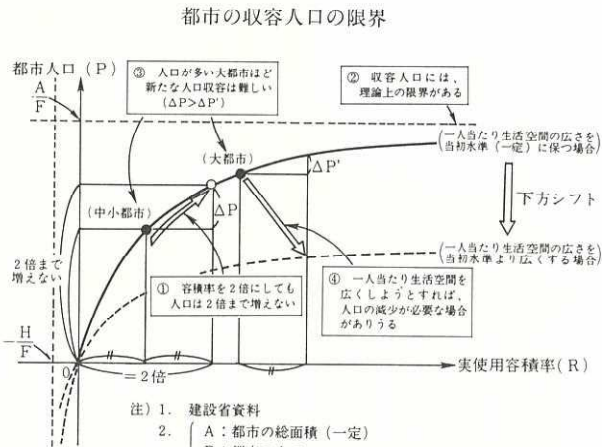
一人当たりの生活空間の広さやゆとりは、都市生活の快適さ実現のために必要な基本的条件の一つである。「土地の有効利用を進めても、限界のある都市の収容人口」

しかし、土地の有効利用と都市基盤整備により、ある程度の人口増加を許容しつつ生活空間のゆとりを増大させることには限界がある。例えば、一人当たり生活空間（居住空間、公共空間等）が現状のままというケースで、実使用容積率を二倍にしても、都市人口を二倍までは増加させ

られない（図①）。無限に高層化するとしても居住人口には限界がある（同図②）。人口が増加して必要となる公共施設用地は相当面積に及ぶため、土地の有効利用を進めても、一人当たり生活空間を一定水準に保てば、都市の収容可能人口は容積率の上昇に比例するほど増加しない。

【大都市ほど難しい新たな人口収容】

実使用容積率を同じだけ高めて新たに収容可能となる人口純増数は、当初人口が多くなればなるほど（大都市になればなるほど）急速に小さ



注) 1. 建設省資料  
2. A: 都市の総面積 (一定)  
P: 都市の人口  
R: (私有地) 実使用容積率  
H: (私有地) 一人当たり建物床面積  
F: 一人当たり公共施設等用地 (公有地) 面積  
とすると、 $A = P \cdot F + P \cdot \frac{H}{R}$   
したがって、 $P = \frac{A}{F + H/R}$

【東京問題の解決には、一極集中の是正が必要】

以上より国土の均衡ある発展、地方活性化等はもちろん、いわゆる東京問題自体を解決し、ゆとりある生活空間を創造するには、東京一極集中の是正が重要であることがわかる。圏域構造を多核多圏域型に改編するなかで、土地の有効利用、都市基盤の計画的整備を推進するとともに、東京圏からの人口、諸機能の分散を強力に推進することが必要である。

くなる（同図、③）。一人当たり居住空間、公共空間等を当初水準以上に引き上げようとするれば（曲線の下方シフト）、新たな人口収容は一層困難となり、生活空間の広さの目標水準によっては、人口減少さえ必要になりうる（同図、④）。

【大都市ほど難しい生活空間のゆとりの創造】

一人当たり生活空間と実使用容積率の関係を見ると、土地の有効利用による居住空間、公共空間等の増加は、実使用容積率の増加にともない通減する。さらに、都市の当初人口が大きい場合ほど、実使用容積率を同じだけ高めて創出される一人当たり生活空間は小さい。逆説的だが、人口が集中し、一人当たり生活空間に余裕のない大都市ほど、容積率を高めるだけで改善することが難しい。



(写真提供 佐藤工業)

JR大阪駅に隣接する大阪市屈指の商業・業務地域の一つである梅田地区。ここを通る阪神高速道路池田線は、大阪の都心部に大阪国際空港および池田市をはじめとする大阪北部の各都市を連絡し、一日平均8万台が通行する重要な路線。そこで阪神高速道路公園では、土地の有効かつ高度利用を図り、大阪池田線本線の渋滞緩和、周辺の利便性の向上等を目的として、空港方面からの出路の新設を計画し、平成4年夏ごろの完成を目標に現在、工事を進めている。

不思議なかたち？

いいえ、もっともな関係です

# 高速道路と高層ビルの共存

取材・構成

あびこ・よしあき

㈱全国建設研修センター

## 立体道路とは

「立体道路」。この言葉だけの印象で捉えると、どのようなものか思い浮かぶであろうか。

高速道路のインターチェンジで道路と道路が立体的に交差している風景、電車が走っている上または下を道路が通っているところ、首都圏または近畿圏などで高速道路が都市内を高架で通っているなど、いずれにしても線的なもの同志が立体的に交差している情景が浮かぶ。

従来、国、地方公共団体、公団などの道路事業者は、道路を建設する際たとえ高架橋のように道路が空中を通る場合でも、その下に投影される用地は道路区域として買収しなければならなかった。

確かに、今までも道路の下などに建物があったわけではないが、それらの土地はあくまでも道路用地であった。すなわち、用地の所有者が立体的に存在するということはなかったわけである。

したがって、道路延長中わずか数mの用地が買収できなくても、道路建設までや供用までが遅れることとなり、計画自体が据え置きにないたりする例が多かった。

特に市街地においては、用地費が高騰し、既地権者のための代替地の取得も非常に困難な状況である。一方大都市圏では、慢性的な交通

渋滞を解消するために幹線道路を整備することが必要となっている。

「立体道路」とはこれらの問題を解消する一つの方策として活用される「立体道路制度」のもとで建設される、道路一体建物とも言うべきものである。

どういふことかと言うと、ある土地を二者の地権者が共有する、それも実質的にはその土地を立体的に共有することができるようになったわけである。一般的に土地利用図では、今まで当然のことながら道路はグレー、建物はピンクというように平面的にはっきり区分されていたが、この立体道路制度により道路と建物が立体的にそれも所有者が異なる土地に存在するということになれば、従来のような色分けでは表現できないとも言える。

「立体道路制度」は、このように土地を高度有効利用するため、道路と建物を一体的に整備する際に活用されるもので、単独の法律ではなく、

- 道路法（第四七条の五、九、第四八条）
- 建築基準法（第四三条、第四四条第一項第三号）
- 都市計画法（第十二条の四第六項、第五三条など）
- 都市再開発法（第七条の八の二第四項など）

の各法律により構成され、適用される。

これらの法律は、平成元年六月二八日に交付され、同年十一月に施行された。

道路法では、

「道路の区域を立体的区域とすることなどにより、道路の上下空間に建築物などを一体的に整備できる」

ように改正された。

また、建築基準法、都市計画法などでは、

「道路の整備と合わせた良好な市街地環境の形成及び道路と一体的に整備される建築物の道路内建築制限の合理化を図る」

ように改正された。

道路の敷地に関する権原については、原則として区分地上権（または敷地に関する共有持分）を取得することとなっている。

このように道路法や建築基準法などの改正により、自動車専用道路などを新設または改築するときに道路の区域を高さ方向に限定して定められるようになったわけである。

### 阪神高速道路公団では

来年5月、阪神高速道路公団（以下、公団という。）は設立三十周年を迎える。平成二年7月、北神戸線の供用延長に伴い、阪神高速道路の営業距離は百五二・八kmとなっている。

昭和三十九年六月二十八日、大阪の湊町・土佐堀間二・三kmの営業が開始され、当初の利用台数は一日平均三千台にも満たない状況であったが、平成元年度実績では阪神東地区が約五八万台、

阪神西地区が約十九万台、合計七十七万台にも達している。

公団の事業では、関西国際空港・関西文化学術研究都市・明石海峡大橋などの大規模プロジェクトが進行しているなか、都市部交通の分散を図り、都市圏整備に寄与する新設道路の建設を推進すること、また営業中の路線では出口やミニパーキングエリアの増設、さらに利用者へのサービス向上などに力が注がれている。

阪神高速道路は都市内高速道路といわれ、高速走行よりもむしろ都市内の短距離交通を円滑に流すことを目的としている。

このように都市内の高速道路を整備するといふことから、高架構造の高速道路が延長されるたびに路下に大きな空間が生まれ、その利用を推進する方策が取られている。

平成二年三月現在の高架下利用部分の内訳は、

公団施設	四三%
店舗など	九%
駐車場など	三〇%
公園など	七%
その他	一〇%

となっている。

これらの高架下は、「立体道路制度」が適用されたものではなく、あくまでも用地は公団が道路建設のために買収したものである。

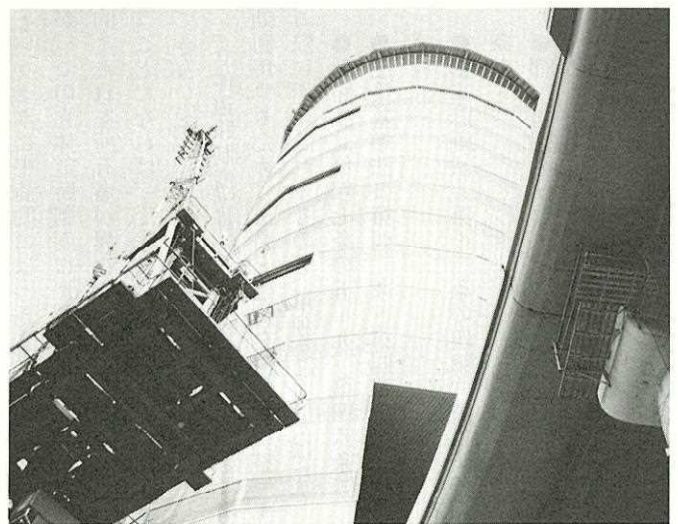
公団では単に道路一体建物という構造的な要素だけで捉えれば、高架下を従来から有効的に

利用してきているのである。

繊維卸問屋の密集する船場地区を貫通する東大阪線はその一例である。船場地区の商業地域としての機能を存続させるため、各種店舗を収容するビルを高速道路の高架下に建設し、道路とビルが一体となる構造を作り出している。

また、大阪市中之島地区を通る池田線のS字橋も、朝日新聞社ビルと一体となっている。

このように「立体道路制度」を活用しなくても、道路一体建物は既に建設されていたわけである。



## 梅田出路とビル建設から生まれたもの

このような状況のなか、公団では営業中の大阪池田線の梅田出路の建設を予定していた。

この梅田出路を新設した場合、利用交通は一日約八千八百台と予測され、図のように交通流の変化が生じ、その結果、

- (a) 福島、出入橋及び北浜ランプの利用交通が減り、アクセス道路への負荷を軽減
- (b) 環状線への負荷を軽減
- (c) 整備地区と高速道路が有機的に結合

といった利点を生むことができると予測されている。

梅田周辺の利便性を向上し、大阪梅田線本線の交通渋滞を緩和するため、空港方面からの出口として梅田出路の建設がどうしても必要であったわけである。

一方、梅田出路の建設予定地には、タクシー用LPG（液化プロパンガス）を販売するオートガス・スタンドがある。JR、地下鉄、私鉄が乗り入れる大阪駅に近いため、タクシー相手が商売をするには立地条件のよい場所である。

このような理由で、道路建設のためにその用地を買収し、これを代替地に移転するというのは到底無理な話であった。また、大阪市北区の西梅田地区は地価1㎡当たり一千万円という一等地でもある。さらに、出路を建設する場所に、

同じ地主がビルを建設する計画も同時に進められているという状況であった。

「公団の道路建設」「用地難」「ビル建設」という三つの集合の積が、わが国では初の「立体道路整備」を活用した道路一体建物の建設を生んだわけである。

この事例では、公団が五〜七階部分の範囲に「区地上上権」を設定し、ビル側では五〜七階部分は延床面積に含まれていない。この部分は屋外機械置場として定義されている。

## どうやってつくったか

今年八月八日（取材時）では、ビルはタワークレーンを解体中で内部仕上工事と屋外工事を、道路は舗装及び附帯工事を残している段階であった。

道路一体建物といっても、出来上がりは道路の桁をビルで支えているというわけでもなく、そういう意味では一体の構造物ではない。

## 工程の取り合い

工事は次のように進められた。ビルは杭工事に始まり地下部分の掘削を行い、七階部分までの鉄骨を組立てる。

道路は、ちょうどビルの五〜七階部分の空間を通るわけであるが、図のように道路が通る空間を持った七階までの鉄骨が組上がった段階で、道路床版部分を七工程、二五ブロックに分け

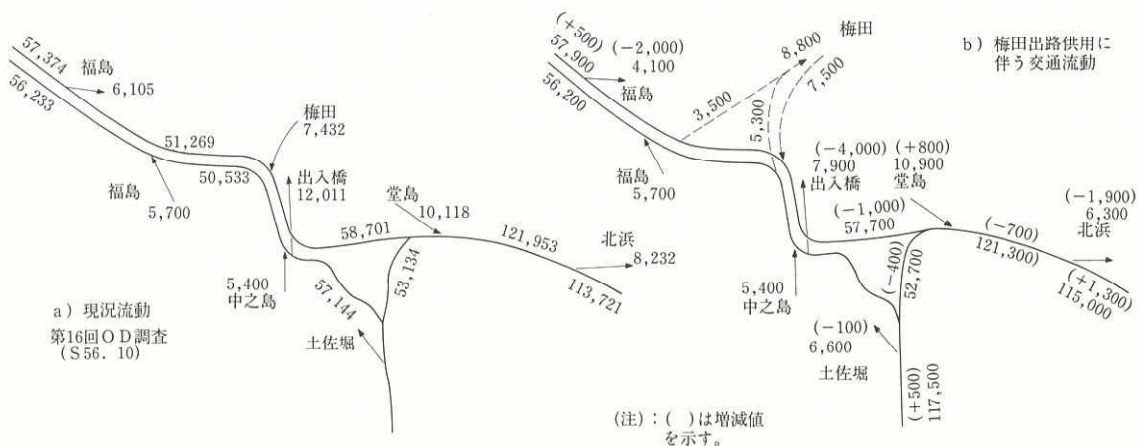
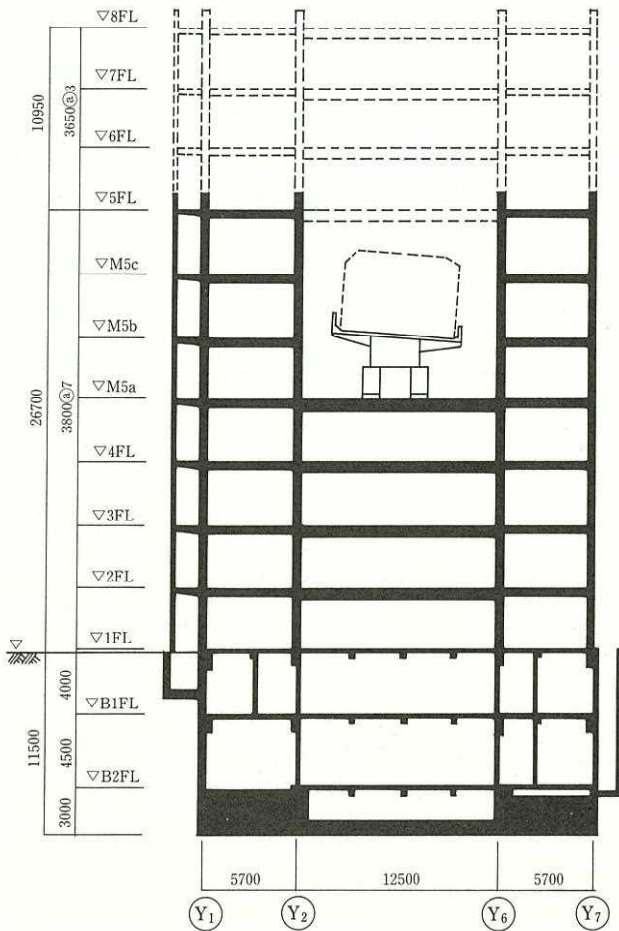


図 出路新設に伴う交通流動の変化

レーンで吊り上げ、逆に七階から降ろすかたちで設置し、それぞれを緊結して桁を架設する。桁を架設する際には、ビルの五階部分のスペースでこれを仮受けしている。

道路桁部分の架設は、仮設込みで五日間で終了したそうであるが、ビル建設を担当する佐藤工業では、この七階部分までの鉄骨組立ての工程が道路の桁架設という他工事との取り合いて、その部分までの完成が限られているために工程上神経を使ったが、一日と狂うことなく工事を進行させることができたそうである。



断面図 1:200

ゲートタワー-BLDG.断面図 1:200

桁架設に当たっては、両工事工程の取り合いを考慮しなくても済むように、ビル鉄骨組立てがすべて完了してから、五〜七階部分の空間を抜けるように移動仮設などの方法を使って構築することも検討されたが、道路線形が曲線であるためこの方法は取られなかった。

道路部分について残されているのは、ビルへの振動や騒音を遮断するシェルターの構築、舗装及び照明などの付帯工事である。公団工事事務所の担当者は、ビルとの共存部分の工事は無事終了したようなものであるが、現存する高速

道路への取付け工事の際、その振動があるためコンクリート打ちが大変であると言っていた。ビル

このビルは、高速道路のドライバーに不安感を与えないよう、またデザイン上の配慮から円筒形にしたそうである。円筒形ビルの構造評定は、ビルの全体構造として行われるものではなく、高速道路の延長方向に直角ないくつかの断面をラーメン構造、一番外側の円弧の部分は片持ち構造として捉え行われた。

この構造評定は別に高速道路が通るからというわけではなく、円筒形のビルを構造評定できるシステムを有する会社がわが国にはわずか一社しかないからであると言う。

なお、五〜七階の半分以上を空洞にするため、通常は百二十kg/m<sup>2</sup>で済む鉄骨量が、倍の二百四十kg/m<sup>2</sup>も必要とされた。

#### RCリング切梁

佐藤工業ではこのビル建設の山留め工事に、RCリング切梁という方法を採用した。

これは、鋼管柱列山留め壁の内側にリング上に幅二mのRCを現場打ちするものであり、ひずみ計などを設置し計測管理を行いながらその有用性が実証された。特に従来の鋼製切梁のように作業性を阻害する要素がなく、品質・工期・安全・コストなどの面で従来工法より優れていると判断されたようである。





現況高速道路との、すり付け部分近くから見る  
道路一体建物

## 都市、これから

このビルは約十一haの西梅田再開発計画地区に道路を隔てて隣接しており、そこに建設されている毎日新聞社ビルと三階部分で人工地盤で接続されるとともに、大阪駅から続く地下道に連結される予定である。また、屋上はヘリポートとなっており、将来この付近の名物ビルとなることであろう。

また、公団では大阪府・日本道路公団とともに、関西国際空港の対岸に位置して建設が予定されている「りんくうタウン」の湾岸線前島ジャンクション（仮称）に、平成五年三月完成を目標とした道路一体建物を計画している。

今回の例では、両工事自体は工程上限られた

部分があったにしても、ほぼ従来の工法により行われ、用地が立体的に区分され所有されているなかで、道路一体建物という真新しい都市空間が構築されたわけである。

道路建設・用地難・ビル建設という三つの課題を包括的に解決する方法として「立体道路制度」が適用された。

公団計画部企画課の方々も言っているように、今後の「立体道路制度」の適用は現存する問題の解決にだけではなく、「りんくうタウン」のように都市空間を積極的に創造する方策としてこの制度が活用されるべきであろう。

「立体道路制度」は、大深度地下という土地の下方に進められる大都市圏の土地高度・有効活用とともに、土地の上方についても、ある面積を持つ土地を立体的に多目的に利用しようと

する、過密大都市圏の多様な可能性を実現する方策である。

土木・建築両者とも技術的には十分対応できるものを持っているが、時代のニーズには制度が整備されてもその多様性のため、追いつき追い越すことはなかなか難しい。しかし、その多様性ゆえに、それぞれの利用者の立場を最優先するため、土木・建築分野の融合がますます図られることが望ましい。

最近では関係または関心がないと、あつと言う間にビルや道路が出来上がっている。しかし、そこでは様々な分野の技術者が工事に携わっている。

物をつくりあげるといふ満足感・征服感を知っている人間は、土木・建築、どちらの建設分野でも皆同じである。利用者・所有者の立場に立った建設分野の発展は、これら技術者の横の連携により支えられるのであろう。今回の現場ルポを終えた印象の一つである。

仮設しか施されていなかったもので、緑の方へ行くと足が震えたが、ビル屋上のヘリポートから見る大阪は、なかなか壮観であった。何年か経つともう一度登らせてもらい、その変わりようを実感してみたい。

（取材日／平成3年8月8日）

# 前田建設の社員教育

## ～新入社員教育について～

前田建設工業株式会社  
人事部副部長

### 難波 俊文

当社の社員教育は従来、集合教育より職場教育（OJT）を中心

に実施されており、先輩から後輩へ、或いは上司から部下へと、職場での実践的な教育や、インフォーマルな形での人間教育が行われてきて、この伝統が継承され、これが会社の発展につながる礎になってきたと言える。

しかし昭和五六年一月に教育のしくみを制定し、その後教育の体系を順次整備し、階層別集合教育、職能別教育、特別教育、職場教育、自己啓発といった各教育項目に検討を加え、平成二年七月に至りやっと第一〇次改訂をもって、

ほぼ納得のできる教育のしくみが出来上がった。

人材の育成には社員の資質の向上と能力開発が不可欠であり、社長は、社長の信念、教育の目的が合致していなければならない。

- 社は「誠実 意欲 技術」
- 社長の信念 「人材ではなく、人才を」
- 教育の目的 「志向性のある社員に」

技術・市場・人間のニーズが、加速的に変化し多様化する状況にあつて、個々の環境の変化への対応を自発的・創造的に行える社員の育成。

さて、当社の教育の内容を全部紹介するには紙面に限りがあるので、今回は新入社員への導入教育の進め方についてふれてみたい。

### 新入社員導入教育

平成元年迄は三泊四日の自衛隊研修に参加させていたが、その後急激な採用人員の増加もあり、社会情勢と教育内容を再検討した結果、当社独自の導入教育を実施することになり、平成二年度は富士山麓河口湖において、そして、今回平成三年度は南房総白浜のホテ

ルを使い、総合職二二九名（男子二二〇名・女子九名）を対象に四泊の研修を行った。

〔研修のねらい〕

- 一、前田マンとしての基礎的素養を身に付けさせる。
- 二、「社史・創立者と名誉会長」「社は」「建設業の現況と将来」を明確に意識づける。
- 三、「社会人としての心構え」「ビジネスマナー」
- 四、合同研修による系統の枠（職種・学歴）を越えた同期意識を涵養させる。
- 五、団体行動（オリエンテーリング・二二・七km歩行）よりチームワークの重要性を理解させる。
- 六、グループディスカッションによりグループの意見の統一の難しさを体験させる。
- 七、「TQC」と「安全」の基本を確認させる。
- 七、会社規則を理解させる。

研修の進め方は極力、参加型研

資格等級	職能段階	標準職能	対応職す位	各段階における人材育成の基本(わらい)	階層別教育		電機別教育	特別教育	国際化教育	職場教育	自己啓発
					一般教育	品質管理教育					
役員	経営管理	経営レベルでの意思決定に参与し得る能力	本部長・部長	コンセンサス・アパルスキル	謙虚力・構成力 企画力の育成	新任役員・支店長・OB教育	重役特別コース TQCリーダー セミナー				
理事	経営管理	上級管理者として業務を完遂する能力	部長	ヒューマン	管理職研修 課長コース	新任役員・支店長・OB教育	経営幹部 特別コース				
参事	部門専門管理	高度熟練業務、初級管理者として業務に精通し、速行に当たり責任者として部下を指導・監督できる能力	部長・副部長	専門知識の育成	管理職研修 課長コース	新任役員・支店長・OB教育	経営幹部 特別コース				
副参事	指導・監督	高度熟練業務に精通し、独立して担当できる能力	課長・副課長	専門知識の育成	管理職研修 課長コース	新任役員・支店長・OB教育	経営幹部 特別コース				
社員	熟練	定められた標準により段取りをこなす能力	主任	専門知識の育成	管理職研修 課長コース	新任役員・支店長・OB教育	経営幹部 特別コース				
	基礎	ある程度の熟練業務遂行能力、普通程度の経験・知識・技能をもった定型的技術・業務処理能力	主任	専門知識の育成	管理職研修 課長コース	新任役員・支店長・OB教育	経営幹部 特別コース				
社員(一般職)	基礎	初歩的技術・知識で単純かつ定型的な事務補助作業・能力		専門知識の育成	管理職研修 課長コース	新任役員・支店長・OB教育	経営幹部 特別コース				
技能職員	基礎	オペレーター・メカニック・機械工・電工等の専門能力を有し、班長として従業員を指導する能力		専門知識の育成	管理職研修 課長コース	新任役員・支店長・OB教育	経営幹部 特別コース				
協力会社		前田品質管理実践の挑戦から受業までの自主管理能力		専門知識の育成	管理職研修 課長コース	新任役員・支店長・OB教育	経営幹部 特別コース				



グループディスカッション

「修」の方式を取り入れ相互啓発に結びつけることに注意を払った。この方式は自らも発言し、また他人の意見を傾聴することにより学習内容に主体的に参加できるので、それだけ学習効率が高く、更に仲間から受ける刺激に啓発され自己啓発への強い動機づけとなる。

なお、研修には人事部より五名と各部より選出された入社後三年～六年生の十二名、合計十七名の

技術・事務を折り混ぜた問題に解決

□オリエンテーリング

トレーナー作成のオリエンテーリングマップにより、白浜地区海岸通りと野鳥の森二・七kmをG・Dと同一のグループ二三班全員に班別背番号をつけさせ、歩行競技を実施した。途中六ヶ所のポイントに十五分の制限時間を設け、

トレーナーにより編成し、計画準備段階から彼等に参加させ、人事部おしつけの立案にならないよう若いトレーナー職員の意見を多く採用するようにした。

□グループディスカッション

土木・建築・事務・機電といった職種の違いを混成グループを十人単位として二三組作り、約六時間の時間を与えディスカッションをさせた。テーマは「私達の世代」、各班活発な意見の中にサブテーマとして「コンピューター化された世代」「深夜型の世代」「マンガの世代」といった形でまじめに入り、夜は各班一名その場で発表者を当てる形で、緊張と興奮の中で発表会を行い、審査・講評・表彰を行った。

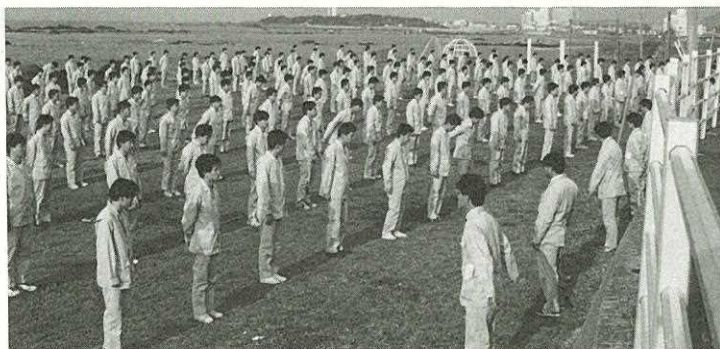
研修内容

	総合職 229名 □ 男子 (220名) 女子 ( 9名) 南房総 白浜	6:30 起床 7:00 体操 7:45 朝食 8:30~ 学習 23:00 就寝	一般職 (女子55名) 取手研修所
4月2日 (火)	(午前) 「前田マンとしての基礎的素養について」 「ビジネスマナー・身だしなみ・職場生活・あいさつ・名刺・来客対応」 (午後) 「仕事にとけ込む三原則他」 ビデオ講座 「教育体系について」 「安全について」 「トレーナーとのコミュニケーションの場」		(午前) 9:30 集合 「給与・社会保険・就業規則等」 (午後) 「社会人としての心構え」 「身だしなみ・挨拶・言葉使い」
4月3日 (水)	(午前) 「就業規則・給与・社会保険等について」 「TQCについて」 (午後) グループ・ディスカッション (10人×23組) (夜) G・D発表会・審査・講評・表彰		(午前) 「前田建設社員としての基礎的素養について」 「電話応対のマナー」 (午後) 「来客応対のマナー」 「仕事のすすめ方」
4月4日 (木)	(午前) オリエンテーリング (午後) 白浜・館山野鳥の森 (10人×23組) (22.7km) ポイントクイズ・タイム (夜) 結果発表・表彰		(午前) 「ビジネス文書の基本」 「報告書の書き方」 (午後) 「効率の良い一日のスケジュール」 「G・Dと発表」 (夜) 「先輩とのコミュニケーション」
4月5日 (金)	(午前) 職場での諸注意、今後の研修日程の説明 本社 土木系の1/2は取手へ		(午前) 「OA業務について」 「TQCについて」 (午後) 本社

答をさせた。  
 この競技は、歩行中の安全確保が最優先の課題である。危険性の少ない道路を設定し、かつ各班班長が先頭に立ち、副班長を最後尾

として整然と歩行することをルールとした。万一、事故発生の際は即中止するよう連絡体系を明確にしたことは、記述するまでもない。

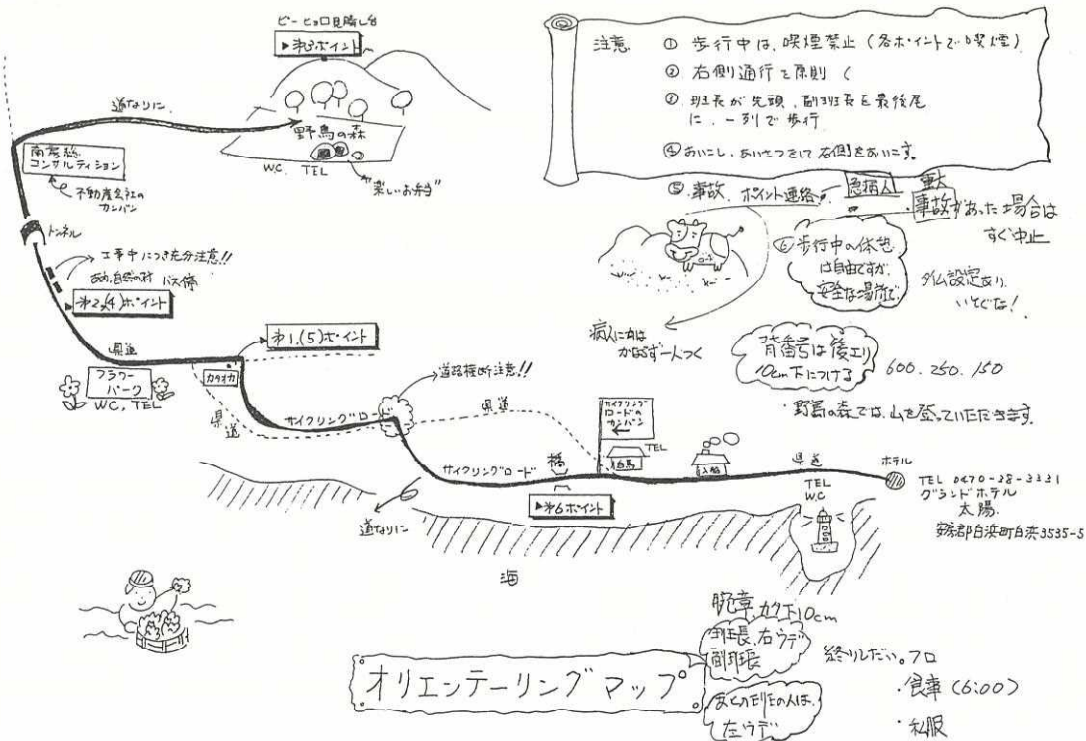
途中、落伍者もなく全班無事ゴール。疲れと満足感に溢れた新入生の顔に接し、トレーナー一同ホッと胸をなで下ろした次第であった。



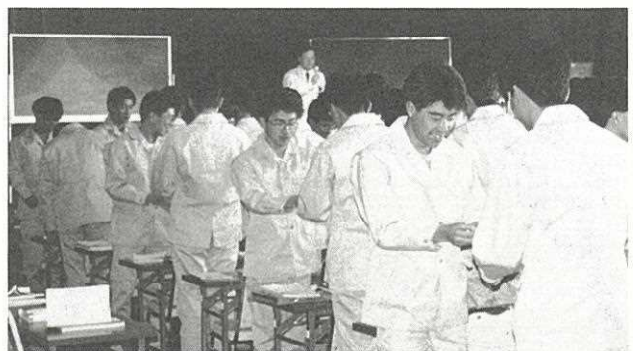
全員朝礼「ラジオ体操」

□ 研修の主な効果

夕食後、問題解答率・タイム・歩行中の隊列態度を数値化し、評価をもって優秀グループの表彰を行った。会場は、大いに沸き返り、各グループの団体意識は、最高度に達したと言っても過言ではなかった。



- 一、同期意識の向上と動機づけに結びついたこと。
  - 二、参加型研修により自ら発言し、行動する機会が多く自発的な態度が形成され、習得の度合いも大きかったこと。
  - 三、チーム・ワークとしての行動力・団結力の重要性を十分に体得したこと。
  - 四、先輩（トレーナー）主導による団体行動に規律性をもたせたこと。
  - 五、先輩の説明やアドバイスにより、現場生活や寮生活を理解させ、社会へ出発に当たっての不安を解消させたこと。
- 新入社員導入教育を総括すると以上の通りである。この研修が終了すると職種別教育を会社研修所を使って五日〜三〇日の間で実施される。
- 研修に参加する講師・トレーナーには事前に新入社員である「若者の特徴」特に価値観・仕事については「オモシロイ」かどうかといったフィリリング的なものさしでとらえようとする傾向、指示待



マナー教室・名刺の渡し方

ち傾向、困難回避傾向、気働き欠落傾向：等々を十分に念頭に置いてもらい、理解した上で指導・育成に当たるよう注意を与えている。

また、研修後はトレーナーの意見に加え、受講生からもアンケートにより改善提案を呼び掛け、来期の研修をより研かれたものへ結び付けるべく努めている。

なお、社員（一般職）の研修は別途行っている。

## 人生哲学を学び得たことに感謝

笠井 澄人

(長野補償コンサルタント(株))

私は今年の三月で還暦を迎えました。実は、今回の研修参加者の中で、私が一番年長者ではないかと内心考えておりました。ともあれ私自身、勉強をしたいこと、そして日常業務の中で疑問に思っていること、規程の改正点等を解決するために参加を決意した次第です。しかし、研修当日私より年上の方が参加していることがわかり、安堵すると共に感動しました。また、驚いたことに若い世代の人達に加えて、女性の進出でした。生来勝ち気の私が、これらの人に接して不思議な力が体内に漲り、恵まれた施設の中で充実した研修生活が出来ました。

さて、講義については、年齢を感じさせない洲上先生の講義「補償の法理」は、正に補償理論の原点から解説すると共に判例、学説通説に至るまで高度の講義を拝聴して感激しました。また、病み上りの小林先生が一日教壇に立つて、研鑽された学問と経験によつ

て作成された教材で、「会計・財務諸表」を学ぶことが出来たこと、そして、両先生から人生哲学を学び得たことを心から感謝いたします。両先生の旺盛な学問に対するご熱意は、私自身の残された人生のターゲットをご教授いただきました。更に、建設省の講師の皆様には、ご多忙の中を私達のためにご熱心にご教授いただき、日常業務の疑問点が解消されました。今では、本研修会に参加した喜びと満足感と、友達が得られたことを感謝しております。

## 補償業務の対応事例等参考となつた

渡辺 利文

(旬飯山補償設計)

私は、物件調査及び積算の全般の業務を行っています。その中に営業に関する業務のある場合に営業調査及び積算を行っておりますが、補償方法も休止補償によるなど一般的な補償方法によるものが多かったため、今回受講した内容では、特に事例研究を興味深く拝聴し、営業廃止及び営業規模縮小はその方法を再認識し、得意先喪失の新たな積算方法についてもと

ても参考となりました。

私どもの会社は従業員八名程度の小規模な会社ですので、この様な研修に参加し、他の同業社の皆さんとの情報交換を通じて、現在の補償業務の実情や疑問点等に対応するための方法など、参考になる部分が多くあり、また、人間関係も広くなり、これからの私自身の業務を行っていく上で、プラスになると確信いたします。

## 営業補償業務の流れが系統立てられた

山口 美保乃

(株東光測建)

研修を通じてのいちばんの成果は、営業補償の業務の流れが、系統立てられて包括的に理解できたことでした。

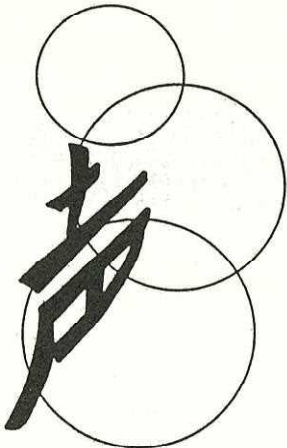
「営業補償の概要」でマクロな視点からのアプローチがあり、日を追うに従い総論から各論へと内容を深めていけたので、このような筋道立った理解が可能であったと思われまます。

さらにこの研修でのもう一つの成果は、同業他社の諸先輩からのご指導がいただけたことです。皆様の業務に対する熱心さと造詣の

二十一世紀へ向けてわが国の住宅・社会資本整備を効率的かつ円滑に推進していくことが重要な課題となっている今日、公共用地取得業務もますます困難となってきております。被補償者に対する代替地対策、環境問題や権利意識に対する地域住民の多様化等多くの問題を抱えているなかで四三〇兆円におよぶ公共投資十ヶ年計画の実現化等用地取得業務の増大も緊急な課題であります。

当研修局は補償コンサルタント登録規程が昭和五九年に制定されたことに伴い補償コンサルタント協会と登録部門における専門コースを共催して参りました。今回は平成三年度に実施した「補償コンサルタント専門―営業・特殊補償―」研修に参加された方の感想文を一部ご紹介いたします。

研修局



# 補償コンサルタント専門研修に参加して

—営業補償・特殊補償部門—

深さは、研修中の質問や休憩時の雑談から十分に伺い知ることができ、今後の自己啓発への大きな励みとなりました。

この研修での成果を、確実に身に付け今後の仕事に活用して行きたいと考えております。

**用地取得の経験を生かし大いに発揮したい**

東原 靖雄  
(㈱アンドー)

今回の研修に参加し、非常に有意義でした。今まで、用地取得部門の調査・測量を二〇年近く行って来ましたが、その中で地権者との交渉過程でも一人一人の意見があり、その対応に何回となく設計図の変更をされ苦労してきました。

初日に測上先生(㈱日本補償コンサルタント協会会長)の「補償の法理」の講義を受けた時、補償の範囲が財産権の保償だけでなく、生存権の保償までに及んで来たことが良くわかりました。われわれが用地取得の交渉内容において、むずかしかったことは後者の主張ではなかったのではないのでしょうか。これを機会にまた、今までの用地取得の経験を生かし大いに発揮し

ていきたいと思えます。最後になりましたが他の受講者の方々も親睦ができたことも何よりのおみやげになりました。

**今後の指針となり得るに十分な価値があつた**

作田 麗子  
(㈱産業工学研究所)

この研修に参加する事ができて本当に良かったと思う。

主に調書を最終的にまとめる業務を八年間やってきたために全て広く浅くの状態で焦りが生まれていました。営業補償を私のこれからの分野とすべく、この研修に参加したのですが、それ以外にも得るところがあまりに多くありました。補償の法理等は全くと言っていい程社内でも知る機会に恵まれません。この時期は新工法への転換期であり、講義の内容も狭義の営業補償に止まらないものであったので、私にとっては今後の指針となり得るに十分すぎる価値がありました。

個々の補償項目に対する知識をどこまで掘り下げていけるかが、これからの私の課題であると思えます。

**これから女性性の進出を期待したい**

麻田 圭子  
(㈱アンドー)

今回この研修に参加いたしましたし、たいへんおどろいた事は女性の参加者が多く、皆さん大変努力されており、研修にも積極的に男性と同様に第一線で活躍されている方ばかりで、そのレベルの高さにも感心させられました。

自分が女性だから言うのではないのですがこのような補償の仕事

はこれからもどんどん女性の進出を期待したいと思います。

現場での調査にしても、成果品の作成にしても女性だからその細かい気配りができるのではないのでしょうか。

この研修にしても、また、合宿生活にしても、とても充実していて、有意義に送る事ができた事をうれしく思います。

これを機会に、これからも、もっとと努力していきたいと思えます。

日程	午前	午後
第1日	補償の法理	営業補償の概要
第2日	簿記	会計・財務諸表
第3日	営業調査と資料の収集 営業収益の判定	新移転工法と営業補償
第4日	営業規模縮小の補償 営業廃止の補償	事例研究 (1)
第5日	営業補償の問題点	事例研究 (2)
第6日	漁業権等の特殊補償	

※補償コンサルタントとは、公共事業に必要な土地等の取得若しくは使用、これに伴う損失の補償又は、これに関連する業務の受託又は請負を行う者をいい、本研修は㈱日本補償コンサルタント協会会員として、この業務に従事している者を対象としている。

※感想文の標題は編集部でつけたものです。  
本研修に関する問い合わせは当センター研修局まで。  
電話 0423(24)5315

O P E N  
S P A C E

KANAYA CHIZUKO

金谷 千都子

(生活評論家)

結婚式の招待状が届くと、まず気になるのが「ご祝儀はいくら?」ではないだろうか。知人の訃報に接しても同じ。どうも、近ごろの人づきあいはお金と形が先に立ち、肝心の心が忘れられがちである。

かつて、日本の地域社会には相互扶助のシステムが確立しており、メンバーの冠婚葬祭はムラぐるみの協力で行われた。金品の持ち寄り、労力の提供などがそれ。しかし、現代の都市型社会には、そのまま生活を共有する関係は極めてまれであり、共同体としての機能は変わってきた。今やごく身近な親族を除いて、私的行為である冠婚葬祭における人々の関わり方は助け合いてはなく、心のかげ合いにその中心が動いたといつてよい。日常とは異なるハレの日に際し、親しい関係者が祝ったり、励ましたり、あるいは慰め、感謝するなどの心をかけ合う。それによって人と人との心がふれ合い、通い合い、コミュニケーションが密なもののへと発展する。新しい出会いも含め、人間関係が膨らみ、深まり、ひいては人生そのものを豊かなものへと導く。そこにこそ冠婚葬祭の社会的意義があると考えていいだろう。

にも関わらず、未だに助け合いの習慣が尾を引き、形式にもとら

## 祝儀・不祝儀のマナーを考える

金額にこだわりすぎていませんか

われがちな現状が、祝儀、不祝儀を浮き立たせ、混乱し、とまどいをもたらし結果を招いているのではなからうか。

考え、処したらいいかが一つの課題となる。第一に、今述べた通り、冠婚葬祭におけるつきあいは心のかげ合いにあるのだから、その際の祝儀とか不祝儀は、その心の表われとみるのが当然だろう。祝う心、感謝の心、悼む心などを託して相手に届ける贈り物である。相手が催す行事への参加料金ではないことも付け加えておこう。

したがって、「いくら包むか」は届けたい心に比例する。ということは、人生に多大な影響をもたらすような慶事、弔事に限ってはかける心も大きくなるのが当然だろうし、相手との関係というか自分の立ち場によっても異なるだろう。でも、それが、自分にとって負担になるようでは基本の心に反する。人に心かけるとき無理があれば負担に思う。いきおい、その人間関係が苦痛を伴うことにもなる。それは受け手にとっても同様、あの人からこんなにされては……というとまどいを感じることもある。それはやはり重荷となろう。要は、自分の力に適した大きさ、形ということが大切なのだ。



結婚祝いに例をとってみよう。

まず親戚なのか友人なのか、仕事の関係者なのかという間柄が決めての一つの要件。しかも、その関係の中でもとくに親しいかどうか親疎の度合いをキヤッチしよう。

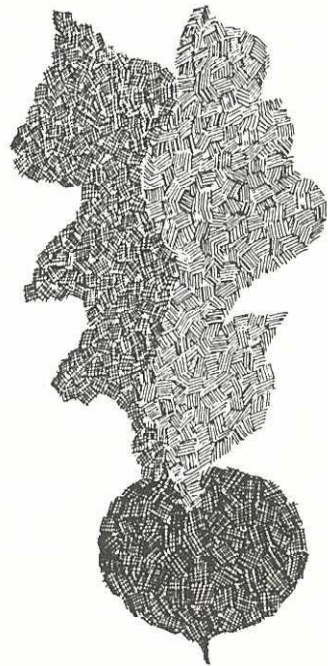
その関係にふさわしく自分の経済力に見合った形で表現するのが第一の要件といえる。たとえば結婚祝いなら月収の五パーセントを一つの目安とする。親しい関係、つまり披露宴に招かれるような間柄ならもう少し上乘せし、ちよつと祝い心という関係ならほどほどに、と按配すればよい。このあたりは自分で自分の物差しをもつべきだろう。

この際、多くの人が気にするのは会場の規模や高級度。でもその必要はない。前述のように祝儀は祝い心の表われであつて、およばれ料ではないからだ。どのような会場で披露宴をするかは先方の都合、それに招待客が巻き込まれるいわれはない。それよりも、同じ友人でありながら、片や豪華ホテルで行うから多目の祝いを贈り、片や地味な会場だからと祝い心を

小さくしていいものかどうか。そう考えれば納得できよう。

もう一つ、最近気になるのは祝いを贈る時期。当日式場へ持参するのが正式と思つている人が多すぎるが、これは間違い。正式には前もつて贈るものである。当日持参するのは略式だから、義理的な関係者、たとえばビジネス上のつきあいくらいに限りた。

弔事に関しても考え方は同じ。相手との関係にふさわしく、自分の経済力に見合った形にする。目安は月収の三〜四パーセントくらい。一家の支柱の不幸に際しては少し多目にするのは心づかいの一つだろう。贈る時期は最初の弔問の折。通夜ならそのときに、葬儀だけに出るなら当日持参し、受付



けに出す。なお、供花、供物に関しては喪主の方針や好みがあるから、遺族か葬儀委員長に申し出て意向に沿うようにするのがマナーである。

なお、祝儀、不祝儀に関してもう一点心がけたいことがある。それは互いが属しているグループとどうか地域、職域などの中の常識、慣例である。中には一つの決まりを作っていることもあるから、そのバランス、和は崩したくない。要は人間関係をスムーズにするのが目的なのだから。

さらに、現金などで表わすだけが心のかけ方ではないことも心得よう。ちよつとしたつきあい、かつての友人などというときには、一通の手紙、あるいはカードに一

言メッセージを記すだけでもいい。私は直接面識のない旧友の親族の不幸などに際しては、旧友本人を慰めるために好物のケーキや花を後日贈る。形だけの当日の弔問より、互いの心は通じ合うはずだ。

一般慶事も含め、どの範囲の関係者までが直接参加したり、金品を贈るものかも迷うところ。その際は、前述の金だけがすべてではないということと共に、自分だったらどうされたいかと考えてみよう。自分が納得できる形を人にも与えればよい。

この「相手の立場に立つ」という気づかいと「自分の立場にふさわしく」という二点がつきあいのセンス、祝儀、不祝儀の表わし方のコツである。それが最も顕著なのが病氣見舞いではなからうか。相手の立ち場も考えず見舞うのはマナー違反であり、へたなつきあひ方。すぐに見舞つていいのは身内と身内同様の関係者に限る。あとはメッセージを届けるなりお見舞いカードを託すのもしやれていよう。

O  
S  
P  
P  
A  
C  
E

TAKARAI BAKIN

宝井馬琴

(講談師)

戦後、日本の歴史上の人物の相場が大幅ちがって参りました。まさに神人的聖雄と言われていた楠木正成の値段が大暴落したと反対に、足利尊氏の値段が大暴騰。大英雄だ、大政治家だ、時代の現実を十分にわきまえていて、それに乗って幕府をひらいた、とほめる人が多くなってきました。

尊氏の評価として、夢窓疎石の有名な尊氏評があります。夢窓疎石はよく知られているように、後醍醐天皇の冥福を祈るために尊氏が建てた天龍寺の開山です。京都の嵯峨野めぐりの起点ともなるべきお寺さんで、いつもいつもオハタリアンやギャルで押すな押すなの大にぎわいの名利ですが、尊氏自身が帰依していた人物です。その意味で、評価もかなり正鵠を射ているといえましょう。

「今の征夷大將軍尊氏は仁徳をかね給へるうへに、なを大なる徳あるなり」として、「尊氏の三徳」を三つ挙げております。

「合戦に際して身を捨てて臨むことが再三あったが、この武將は表情をこわばらせることなく、

笑みを含んで恐れる気色はまるでなかつた」

——普段、何事もない時はしつかりしている人でも、一朝事あると気が動転して正確な判断がまつた

## 足利尊氏の三徳

く出来なくなってしまうもんです。事件に、我を忘れて流れに吞まれてしまふんですネ。もちろん、私もそれに類する小人ですが、『君子もより窮す。小人は窮すれば

ここに濫す』(論語)

——君子だつて窮することがある。ちがいは、小人だと、窮すれば取り乱してしまうことだ。まさにこの通りになつてしまふ。いざとなつてもあたふたしない悠揚迫らざる大物だつたんでしよう。

さて第二に、「慈悲心が厚くて、人を憎んだり恨んだりすることがほとんどなく、多くの怨敵をも許して、あたかも我が子に対するごとき態度であつた」という。楠木正成が摂津の湊川で討死し、その首は京に持つて来られ、六条河原にさらされたが、尊氏はその首を取りよせて、「公私ともに親しくしていたのだ。まことに不憫である。妻子共、空しき貌(かお)なりとも、さこそ見たく思うてであろ」と言つて、鄭重に正成の家に送つてやつたという、情を知る武士だつたんですネ。

己が謀叛(ぼうはん)を起こした後醍醐天皇が亡くなつたと聞いて、悲嘆一方でなく、哀悼恐怖して、七日七夜の仏事を厳重に営み、夢窓国師のすすめにより、前記のごとく天皇のご冥福を祈るため天龍寺を建て

## エ ツ セ イ

18歳で文学座の研究生となった私は、「2年間だけ、短大にやった積もりで援助して下さい」と母を説得し、20歳までは母からお小遣いをもらっていましたが、そのお金をもらう時の気持ちはとても嫌でした。

月々いくらと決めてもらうのではなく、必要な時に言うのですが、そのたびに「何に使うの、本を買うって本当なの？」と必ず何か言われ、「20歳になったら絶対に親からお金はもらわないぞ！」とその頃私は固く心に決めていました。

「家がもっと裕福で何も言われずにお金がもらえたらいいなあ！」いつも思っていました。もしそんな家庭だったら今の私はなかったかもしれません。

母に何か言われるのが嫌で、アルバイトもいろいろやりましたが、「一人前の女優になりたい」という気持ちがあの頃の私をささえていたようです。若い頃は誰もが貧乏で、お金が欲しい、というのは本音ですがそれよりも自分の目的に向かってしなければならぬことがあるはずで。

「今、一番ほしいものは何ですか？」

先日、あるテレビ局が若い女性たちへ街頭インタビューをしていました。ほとんどの女性が、「オカネです」と例の尻上がりのアクセントで答えていました。本音をそのまま言えるだけ今の世は平和なのでしょうか。

目先のお金にとらわれ過ぎる若者だらけになったら「日本は崩壊するぞ！」と叫びたくありません。

## お金よりも大切なもの



KOBAYASHI CHITOSE  
小林 千登勢  
女優

ました。

心が広い人です。やはり天下をとる人は違う。

テレビの人気者、水戸黄門の道歌に、「気は長く つとめは堅く 色薄く、食細うして 心広かれ」とあります。長寿の秘訣とも申すべき名歌です。広々心は持ちたいもんですネ。

すぐに天国に召されたいという希望あるお方は、この逆歌、「気は短く つとめはずるく、色深く 食太くして 心せまかれ」――

とやつて下さい。すぐお召し列車が来ますよ。

さて第三は、「御心広大にして、物惜み気なく、金銀、土石をも平均に思合て……（以下略）」――ものおしみの心のない人で、何かの祝日や儀式の日などには、大小名からの献上物が山のようにあつたが、それを手当り次第に人によつてしまふので、夕方になると一物ものこつていなかつたという。これも彼の育ちのよさから来る美質で、人好きされる性質なんですよ。

う。よろず寛の心、つまり「寛なれば即ち衆を得る」――こんなところ人がついていったんでしょネ。

しめくくり海音寺潮五郎氏の名著『武將列伝』より尊氏評を記して終稿にしたい。

「……詮ずるところ、尊氏は名家に育つた大様で人のよい、気の弱い、人好きのするお坊ちゃんにすぎない。したがつて、彼は口ボツトだつたのだ。弟の直義が手腕家であつたために、よく時勢を洞察

し、家柄を利用して、天下取りに仕上げたのである。彼を活眼の政治家、大英雄とほめ上げるのは、戦前史学の不当な評価にたいする反動にすぎない。

しかしながら、直義ひとりでは天下はとれない。尊氏という人好きのする人柄を看板にしてこそ、それはできたのだ。この意味では、この兄弟は名コンビであつたといえよう」

# 知ってますか？

## 最近の地球環境問題

最近の環境問題は、地球規模（グローバル）の問題であることが特徴の一つ。従来の環境問題は、わが国でいえば、スーパールン道で自然林の生態系が破壊されるとか、企業の公害物資のたれ流しなどで海や川が汚染されるといったローカル色が強いものだったが、現在の問題は、地球全体に影響が及ぶものである。それには三つあって、「酸性雨」、「フロンガスによるオゾン層の破壊」、「二酸化炭素などの温室効果ガスの増加による地球温暖化」がそれだ。しかし、酸性雨は石炭、石油の燃焼装置に $SO_x \cdot NO_x$ を取り除く、脱硫・脱窒装置をつければ、かなり解決する。フロンの方も二〇〇〇年までに問題のものを全廃するという国際合意ができて、この二つの問題はやや沈静化の方向という感じだ。

それで今一番の問題は、物を燃やすと出てくる二酸化炭素( $CO_2$ )による地球温暖化である。二酸化炭素は、人工化学物質のフロンガスや、自然に発生するメタンなどとともに温室効果ガスで、その発生量は圧倒的だ。ただ温室効果は、必要なものであって、現在の大気から温室効果ガスを取り除くと、地球の平均気温はマイナス一九度になる。現在の平均気温は一五度。実に三四度の温度効果で、われわれ生物が生きて行けるのだ。行き過ぎがいけない、というわけだ。

地球は太陽からエネルギーをもらっているのだが、もらい放しては気温が一方的に上昇してしまうから、エネルギーを宇宙空間に返さなければならぬ。太陽からやってくるエネルギーは、可視光線から紫外線領域のものがほとんど。温室効果ガスは、この時は知らぬ顔の半兵衛。一方、地球がエネルギーを宇宙へ返す時は、赤色よりも波長の長い赤外線形で返す。この時は二酸化炭素を代表とする温室効果ガスが、待つてましたと赤外線を捕まえる。そして、全部ではないが、そのエネルギーを地球へ返し、地球を温暖化する。そして、地球上の水が融け出して、現在の陸地の沿岸部を水没させる、ということになる。

大浜一之

おおはま・かずゆき

ぼいす

# VOICE

## 難題は二酸化炭素による地球温暖化

二酸化炭素は、現在のエネルギーの主力である石油、石炭という化石燃料を燃やせば必ず出てくるものだけに、その対策はやかいである。しかし、大気には国境はないから、グローバルな環境問題といわれるのだ。文明を支えているのはエネルギーだから、事は思った以上に深刻なのである。

一九九〇年八月にまとまった気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の最終報告では、エネルギーの違いで、AからDまでの四つのケースを想定して気温の上昇と、それによる影響を予測している。

シナリオA（ビジネス優先シナリオ）は現在のまま対策をほとんど、あるいはまったく行わない場合で、産業革命以前の二倍に二酸化炭素が増加したのと同じ効果（等価二酸化炭素濃度、他にも温室効果ガスがあるため）になる時期が二〇二五年ごろ、と予測している。Bは低排出シナリオで、二〇四〇年ごろが等価二酸化炭素の時期。Cは対策シナリオで、来世紀後半にエネルギー源が再生利用可能エネルギーと安全な原子力となった場合。等価二酸化炭素は二〇五〇年ごろ。Dは、対策強化シナリオで、Cが来世紀早期に達成され、先進工業国で二酸化炭素の排出規制が行なわれ、発展途上国の排出増加が緩和された場合で、来世紀の終りまでに産業革命以前の約二倍の水準で安定化される、という。

この結果、平均気温の上昇は、Aで来世紀中一〇年間で約〇・三度で、過去一万年の平均温度上昇よりずっと大きい。Bでは一〇年間に約〇・二度、Cは約〇・二度強、Dは〇・一度である。それで、平均海面の上昇だが、Aのケースで一〇年間で約六センチ。来世紀末までに約六五センチと計算される。

海に面した国では、最も発達した地域は沿岸部にあることが多い。海面上昇は命取りである。ちよっと気にしていただいてもバチは当たらない問題でしょう。

読売新聞社科学部記者

# ファジーな コミュニケーション

「この時刻表どおりに電車の来たためしがないじゃないですか。各時間の下に『ごろ』をつけない」

気むずかし屋の乗客が駅長にくってかかった。駅長がどう答えたか知らないが、こういう人がときどきあるものと見える。「時刻表」ではなく「標準時刻表」となっている駅の表示をときどき見かける。九時十分発とあっても、一分くらいおくれることもないではないが、いちいち抗議されてはたまらないというのが、「標準時刻表」にする心理である。普通の人は九時九分も九時十一分も九時十分の中に入れて許容する。腹を立てるのはぎりぎりの九時十分に来て乗りおくれた人くらいだろう。

かつてアメリカの田舎の小さな駅に時計が二つあった。この二つの時計が合っていたことがない。いつもバラバラの時を指していた。うるさ型の利用者が駅長さんにきいた。

「どうして二つの時計は合っていないのかね」

駅長、すこしも騒がず、

「同じなら二つあるイミがないでしょう、お客さん」

とやった。大体のところかわかればいいのだ、ということをや遠まわしに言ったのであろう。こういうようにひとつのことがそれに近いいくつかのことをあらわす場面もあれば、いくつかのことがひとつのことを示すケースもあるのである。

若い社員が上司に

「数日、休みをいただきたいのですが」

と申し出た。よからうと許可が出た。ところが、彼は六日の休暇をとって涼しい顔で出社した。上役が

「『数日』と聞いたじゃないか、どうしてこんなに長く休んだんだ？」  
となる。部下は心外である。

「ですから『数日』休んだんです。どこがいけませんか」

外山滋比古

とやま・しげひこ

ぼいす

# VOICE



結局、休みをとる側の「数日」と許可を出した方の「数日」とは内容が違っていたことが判明した。若い人が、五、六日を数日だと考えていたのに、上司は二、三日だと思っていたのである。その食い違いで、上役は腹を立て、部下はなぜ文句を言われるのかわからなくなった。

十人が十人、美人だと言うヒトもいるが、それはまず例外的である。九人は美人だといっても、ひとは首をふる。九人美人一人不美人である。このほか八美人二不美人、五美人五不美人、一美人九不美人などが考えられる。ひと口に美人といっても、一〇〇パーセント美人なのか、三〇パーセント美人なのか、わからない。しかし、美人ということばはイミをなす。おおよその合意はあるからである。

中年ということばもあいまいである。三十五〜五十五歳を考える人もあれば、三十〜五十歳のことだと思う人、四十〜六十歳がそれだとする人などさまざまである。そういう幅のあることばを使いながらわれわれはたいした誤解や混乱におちいらず、割合に正しい見当をつけながらコミュニケーションを行なっている。

論理的でなくてはいけない。白でなければ黒だ。どっちつかずのフラフラした言い方はよろしくない。そういう厳格な考えは、〇×式テストの解答ならともかく、現実にはなじまない。どうにでもとれることば、許容度の大きいことばで、お互い解釈しながら、相手の言わんとするところを察していく。それがやわらかい人間関係である。

日本語はあいまいな表現が多すぎるといわれる。なにを言っているのか、わからない、と批判されることもある。しかし、それだけ高度に洗練された社会のことばだということもできる。このごろ「フアジー理論」が注目されているが、アバウトな言い方、あいまいな表現は、フアジーのことばだということができる。論理一点ばりのコミュニケーションが冷たいのに比べて人間的なぬくもりがある。日本語のおもしろさはフアジーな感じを豊かにただよわせていることにあるといつてよかろう。

昭和女子大学教授、文学博士

# '90年代 「知的生産」 「知的生活」の方法

昇 秀 樹

(2)新聞切りぬき

読書についてオーソドックスな情報収集手段は新聞切りぬきだろう。

①何を切りぬくか

新聞といっても多数でているが、私の場合は①日本経済新聞と②朝日か読売のどちらかの新聞をきりぬいている。さらに時間がとれるときは③日刊スポーツそれに夕刊誌だが④夕刊フジ、⑤日刊ゲンダイをくわえる。

私の主たる関心領域は社会、経済、経営、風俗、地方自治などがそれらをデータをしめしながら解説してくれるのは日経で総合新聞の中では一番信頼している。

月々土曜連載の「経済教室」や「やさしい経済学」、日曜日掲載の「Quis経済」、月曜日掲載の「列島ワイド」などをよんでいると、しらすしらすのうちに経済、経営、地域開発などの知識が身につくように思う。

日経新聞のよみ方については日下公人（敬称略・以下同じ）の「日経新聞のよみ方」「続・日経新聞のよみ方（ゴマ書房）」という名著があるので興味がある人はよんでみてもらいたい。

朝日、読売は一般紙の代表としてどちらかをよむようにしている。同じ事件の報道でも日経と朝日、読売ではその視点が異なることがよくあり、それだけでもいろいろなもの見方があることをすることができている。ただ時間がない場合は日経だけですすませる場合もある。

さらに時間に余裕がある場合、とくに私のひいきチームである西武ライオンズ（もともと西鉄ライオンズのファンであったのであり、ミナーでライオンズファンになったのではないことを強調しておきたい。西鉄の晩年(?)時代ークラウン―太平洋クラブ―西武の初期：とつらい時期もライオンズをみはなさなかった。ちなみに「巨人―大鵬―玉子焼」といわれた時代があったが、私は「西鉄―柏戸―目玉焼」ファンでとおしつづけた。)が勝利した翌日の場合は日刊スポーツに目をとおす。スポーツ紙はスポーツ・芸能欄が充実しており、レジャー・風俗面がよく理解できる場合がある。スポーツ紙の中では日刊スポーツが一般紙のあつかう政治、経済事件ものについて、もっとも充実した報道をしているように思う。

夕刊フジ、日刊ゲンダイも一般紙とは別の週刊誌的情報が入手できるのでこのんでよむ。夕刊フジでは、たとえば今連載中の泉麻人の「地下鉄の友」や株価速報欄は重宝している。日刊ゲンダイは政治にしても、スポーツにしてもあの独断と偏見(?)で政府や巨人をやつつける文体がおもしろいし、松本享の株欄も経済動向等をする上でも参考になる。

情報収集の一方法として金額は小さくてもいいから「株」を経験することをおすすめしたい。株をもてば自然と株価、経済全体に興味をもつようになる。人間の欲を利用して知識をひろげ



ていくというのは効果的な方法の一つだと思う。私の場合、三重県庁に勤務していたときは地元で立地していた富士通の株や、地元の電力会社である中部電力の株をもっていた。そうすると①多少なりとも地域に愛着がわくし、②地域経済にかかわりのある企業の経営活動がわかれば地域経済の理解に少しは役立とうというものだ。

話は脱線するが、国や地方公共団体にも株価のようなものをつけることができればおもしろいと思う。たとえばA省新規施策好評で二〇円高、B省汚職問題で五〇円安、C県工場立地好調で一〇円高、D県リゾート開発好調で三〇円高、E市行財政改革期待で一〇円高、F市首長の失言問題で三〇円安といった具合。株価は極端にしても国や地方公共団体にも今以上に競争原理を導入するしくみを検討する必要があるように思う。国鉄からJRに七社体制になって相互に競争する中でより少ない職員で、地域に密着したよりよいサービスを提供しているのを見るとその感をつよくなる。

②何に貼るか  
スクラップブックにはる。あるいは台紙にはる。ノートにはる。いろいろ考えられるが、私なりの結論をいえば「B5版型ファイラー・ノートにはる」というのが最適だ。

(i) 私のこれまでの新聞切りぬきの歩みは、まずスクラップブックにはじまり、やがてそれで

は①項目の移動ができない、②KJ法をやるときカード代わりにつかえない、というところで(ii) A4版の台紙にはる方法(梅棹忠夫推せん方式)にかえたが、この方式では①他の資料(単行本、日刊、週刊誌などB5版が多い)と大きさがそろわない、②収納場所をとる、③新聞の分類が自分の関心に変化する度にかわることとなり、整理に時間がかかりすぎる、ということ、現在では(iii) B5版型ファイラー・ノートにはる、という方式におちついている。

この方式だと①他の資料と同じ大きさだし、B6カード(京大型カード)二枚分と同じ大きさであること、②収納場所をそれほどとらない、③基本的には時系列で整理されているが、必要なときはファイラー・ノートのきりとり線できれなさずとも可)できる、ということと自分としては三つの方式の中ではベターな方式とと思っている。

新聞切りぬきは、要はいかに継続して必要な情報を収集するか、であり自分にとって長つづきする方法が一番だと思う。

③週刊誌・月刊誌等  
月刊誌では毎月購入しているのは月刊VOCIEとTHEE21であり、これに必要なおうじて中央公論、文藝春秋、月刊現代、This is 読売、日経TRENDY、NEXT、プレジデントなどがかわる。

週刊誌では、週刊ポスト、週刊現代を購入したり、たちよみしたり、その他必要におうじてサンデー毎日、日経アンドロポス、アエラ、朝日ジャーナルなどをひろいよみする。外国誌ではときおりNEWS・WEEKやTIME、ECONOMISTをひろいよみすることもある。いいと思った記事はそのページをやぶり、あるいはコピーし、B5ファイラー・ノートにはりつける。新聞切りぬきと同じ要領だ。その際かならず新聞と同様、雑誌名、何年何月何日号かを明記しておく。

板坂元だったと思うが、思考にいきまっただときは手あたり次第に週刊誌をかってきて乱読すると、新しい思考・発想がわいてくる旨かいていたが、たしかにそういう効果はあると思う。「創造は異質の情報の結合から生まれる」のだから多数の種類のちがう週刊誌をよめば、異質の情報がおもわぬ形で頭にはいつている訳であり、そのうちのどれかとどれかがむすびつければ新しいものの見方創造的視点がうまれてくるという訳だ。

その他、駅、旅先などでその地域の広報紙、観光案内等をつけたときは入手しておく貴重情報源となることがある。「特にこれは重要だ」とかんじた資料は二部入手しておく切りぬきのときおなじページの表裏とも切りぬきができるので便利。

当該地域の情報は現地でつかむのが一番。そ

の地域の人にきくのも一方法だが、手軽で簡単な方法は広報紙、観光案内等のチラシを入手する方法だ。

たとえば豊島区の広報紙などは日本語だけではなく、英語版、中国語版、ハンダ語版などがあり、豊島区が外国人労働者など人の面で国際化していることがよくわかる。同じ国際化でも港区のそれは欧米人主体で広報紙も日本語版と英語版といった具合だ。

また旅先では地元紙を購入するのもいい方法だ。読売・朝日の販売部数争いがよく話題となるが、実はこうした全国紙が地域の一、二番をあらそっているのは首都圏と阪神圏だけの話で、他の地方ではほとんど地元紙が圧倒的なシェアをもっている。思いつくままあげてみても、兵庫では阪神間をのぞけば神戸新聞、京都では京都新聞、愛知・岐阜、三重では中日新聞、静岡では静岡新聞、長野では信濃毎日新聞、新潟では新潟日報、石川では北国新聞といった具合。

こうした地元紙をよむと全国情報と地元情報と双方がつかめるが、全国紙だと地元情報は不十分。そういう意味でいえば地方と東京の双方の情報を入手できるのは地方の側で、東京は東京情報しかしらない国内情報過疎地という見方もできる。

たとえば関西でいえば関西新空港、京阪奈学術研究都市、本四架橋などは二一世紀の日本・世界に大きな影響をあたえるビッグプロジェクト

トであつて当然関西で発行されている新聞はこうしたプロジェクトの情報をトップで何度もあつかうが、東京ではこれらの国家的・国際的プロジェクトも「関西新空港工事の外国企業参入問題」というような事件とならないかぎり、紙面にはなかなかのつてこない。

今、関西を例にとつたが事情は北海道でも九州でもかわらない。これでは東京は日本の地方の情報音痴になってしまう。現にそうなりつつある。東京人は東京が国内の情報過疎地になっていることに気がつかねばならない。

(3) テレビ、映画、ビデオ、CD、ウォークマンなど

情報のインプットとしてテレビ、映画、ビデオ、CD、ウォークマンなどをとりあげるのは奇異にかんじられる方がいるかもしれない。

現に梅棹忠夫の本でも渡部昇一の本でも情報収集手段としてのテレビ、映画、ビデオ、CD、ウォークマンなどについてはふれていない。(CD、ウォークマンなどは当時そもそも存在していなかったが。)

しかし世はAV(オーディオ・ビジュアル)時代。画像情報、音響情報が情報の中でもつてくる割合は過去にくらべて格段と大きくなっていく。九〇年代、あるいは二一世紀の「知的生産」「知的生活」を考える上でこれらを抜きにすることはできない、というべきだろう。

① テレビはねむらない—世界から、宇宙か

らの情報をリアルタイムで—ここ数年のテレビの発達は目をみはるものがある。音声多重、文字放送、キャプテン、CATV、BS放送、大型画面、そしてハイ・ビジョン……。チャンネルをまわせば二四時間テレビをやっていない時間はないし、国内情報はもとより、世界各国の情報がCNNなどを通じてリアルタイムではいってくる。

一九八九年の中国・天安門事件、東欧諸国などだれをうっての民主化、一九九一年の湾岸戦争は映像のもつインパクトの強さをまざまざとみせつけた。東欧の民主化などは西側情報がテレビ、ビデオでつたわつたことによる影響が大きい。

各局を通じてのニュース番組の充実強化、ドキュメント特集ものの内容充実、フジ・TBSテレビを主体とするトレンドディー・ドラマの流行、フジテレビを主体とするバラエティ番組の充実強化……などテレビの箱一つあれば何日間も退屈しないですすす人(カウチポテト族)も少なくなる。

BS放送に関していえば、韓国、台湾などで日本のBS放送をみるのがちよつとしたブームになっている。ドラエモンや山口百恵などは東南アジアのスターだし、「おしん」も世界各国で高い評価をうけている。日本のテレビ文化がアジアを中心に世界に確実に浸透しはじめていく。日本製アニメなどはアジアだけではなく

欧米でも人気を博している。村上春樹の小説はアメリカでもよまれているというし、YUUKOはアメリカで立派にシンガーとして活躍している。ユーミンの唄もフランスでフランス人歌手によってうたわれる時代となった。

テレビ、ビデオ製品というハードからはじまった日本文化の世界への浸透は、やがてそのソフトの面でもおくれればせながらひろがりをはじめている。

一九六〇年代頃には日本のテレビのゴールデンアワーは「パパは何でも知っている」、「うちのママは世界一」、「アイアム・ミスター・エド」、「ベン・ケーシー」、「逃亡者」、「〇〇一・ナポレオン・ソロ」などアメリカの番組でしめられていたものだが、一九九一年現在、日本のテレビのゴールデンアワーはそのほとんどが日本製作の番組となっている。

こんなところにも「アメリカン・ドリーム」の時代から「ジャパニーズ・ドリーム」(?)の時代への推移の徴候をみてとれるようだ。

②映画—各国、各時代の貴重なデータ源—  
日本映画の最盛期は昭和三〇年代頃で、その後観客動員数は減少しつづけており、日本映画の衰退がさげばれているが、かつての小津安二郎、黒沢明のような世界に通用する映画監督はでないのか?—その反面、アメリカ映画、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、スウェーデンなどのヨーロッパ映画、中国映画、台湾映

画、韓国映画、インド映画、アフリカ映画、中南米映画、そして最近はず連、東欧映画まで世界中の映画が日本でみられるようになった。

ある国の映画をみることは、その国に関する膨大な情報を入力することになる。文字情報とちがって映像情報はその情報量が格段に大きい。その国の市民生活の実態がどうなっているのか、社会経済情勢、政治情勢、そういったものまで映画一本で知ることができることがある。

へたな各国の解説書をよむよりも、雄弁に一本の映画がその国、都市の紹介となる場合がある。  
①「ローマの休日」なしのローマ観光は考えられないし《日本でも大林宣彦監督の「尾道三部作」「転校生」(一九八二年)「時をかける少女」(一九八三年)「さびしんぼう」(一九八五年)の影響で尾道に年間何十万人もの観光客がくるようになったという。地域活性化の手段としても映画は予想以上に大きな力をもっている。》、

②ホウ・シャオエンの「非情城市」は台湾と日本、中国との複雑な歴史的關係をおしえてくれるし、③中国映画の「芙蓉鎮」は、中国文化革命が何であったのかを市民生活の実感に即しておしえてくれる。

④ベルリンの壁崩壊の直前にとられたヴィム・ヴェンダースの「ベルリン・天使の詩」は東西ベルリンのありようがヴィビッドにわたわってくるし、⑤そのヴェンダースが尊敬する監督の一人、小津安二郎の「東京物語」は昭和三〇年

代の東京が、日本が、どのような状況にあったのか、親と子の関係、家族のありようがどのようなものであったかをおしえてくれる。

このように映画は①各国・各都市の現実を知る簡便で貴重な方法であるとともに、②その作品の主張も別の意味で貴重な情報源となる。

①「誰がために鐘は鳴る」の最後のシーン、主人公がおしよせる敵にたちふさがり「オレは正義のために死ぬ：イヤ、それでは十分じゃない」「オレはアメリカのために死ぬ：イヤ、オレは自分の街の人々のために死ぬ：うん、これなら死ぬるかもしれない」「オレは愛する彼女(イングリット・バーグマン扮する恋人役)のために死ぬ：うん、これなら死ぬる」といって死んでいくシ

ーンは、地方自治に関する仕事をしている者にとっては、地方自治の意義—具体的なもの、身近なもののためなら人は命をかけられる、ということをおしえてくれた。②また、「ミシシッピ・バーニング」では、つい最近までアメリカ南部では黒人差別があらゆるさまな形でおこなわれていたことをおしえてくれるし、③「ダンス・ウィズウルブズ」では、かつての西部劇、悪者インディアンを正義の味方、騎兵隊がやつつけるという

ストーリーが一八〇度転換して、インディアン側からみた西部開拓の歴史をおしえてくれる。これだけ豊富な情報と感動をあたえてくれる映画を情報収集の手段として活用しない手はない。(本稿中、意見にわたる部分は筆者の個人的見解であり、(る)ことをおこわりします)

研修名	期日・人数	目的および対象者
建設行政 管理者セミナー	8月 30名・5日間	国、地方公共団体本庁課長補佐以上、公団、公社ならびに民間企業等の本社の課長、またはこれに相当する管理者を対象に、管理者として必要な知識・情報の交換・意思決定過程への認識をはかる。
用地一般 (I) (II)	5月・10月 各50名・各12日間	地方公共団体等の用地事務を担当する実務経験2年未満の職員を対象に、用地取得等の実務について基礎的知識の修得をはかる。
用地事務(土地)	1月 40名・5日間	地方公共団体(人口10万人以下)等の職員または委託による用地業務に携わる職員を対象に、用地取得等について基礎的知識の修得をはかる。
用地事務(補償)	1月 40名・6日間	地方公共団体(人口10万人以下)等の職員または委託による用地業務に携わる職員を対象に、損失補償等について基礎的知識の修得をはかる。
用地専門	9月 40名・5日間	起業者または委託により用地業務に携わる職員で用地補償の基本的知識のある者を対象に、特殊な補償における専門的知識の修得をはかる。
用地補償専門 (ゼミナール)	11月 50名・5日間	公共用地取得業務に携わる基礎的知識のある職員を対象に、実務的な講義、事例研究等を通じて必要な実践的問題解決能力の向上をはかる。
不動産鑑定	9月 60名・6日間	土地評価業務に携わる職員を対象に、不動産鑑定および公共用地等の評価にかかわる基本的知識の修得をはかる。
不動産鑑定(演習)	2月 50名・5日間	不動産業務に携わる相当程度の経験者を対象に、不動産の鑑定評価に関する実務的な知識を、演習を通じて深めるものとする。
土地家屋調査 —不動産登記実務—	7月 50名・5日間	不動産登記、土地家屋調査に携わることとなる者を対象に、その業務に関し基本的に必要な知識および実務の修得をはかる。
土地・建物法規実務	7月 40名・4日間	土地・建物にかかわる業務に携わる職員を対象に、土地・建物に関する民法等の関連諸法規について基本的に必要な知識の修得をはかる。
不動産有効利用実務	7月 40名・4日間	土地に関する業務に携わる職員を対象に、不動産有効利用の事業手法とそれに関する税務等について、実務的な知識の修得をはかる。
中高層分譲住宅 管理実務	10月 40名・3日間	マンション管理に関する相談事務その他管理業務に携わる職員を対象に、マンション管理、建替等に関し必要な知識の修得をはかる。
事業アセスメント —事業推進のための合意形成—	9月 40名・4日間	プロジェクトの事業計画、実施または用地にかかわる職員を対象に、建設事業の推進にあたって必要な合意形成対応力の実践的向上をはかる。
環境アセスメント	6月 60名・5日間	環境アセスメントに関する業務に携わる職員を対象に、建設事業に伴う環境アセスメントに関する専門的な知識・技術の修得をはかる。
宅地造成技術	6月 50名・6日間	宅地造成工事の設計・施工・監督・許可事務等を担当する職員を対象に、宅地造成技術の専門的知識の修得をはかる。
大規模開発相談員	7月 40名・5日間	「大規模開発相談員」に相当する職員を対象に、審査手続の進行管理促進の方策、関係法令の調整方法等の知識の修得をはかる。
土木工事監督者	6月 60名・10日間	地方公共団体等の工事監督業務を担当する職員を対象に、土木工事の施工管理、監督について知識の修得をはかる。
土木工事積算	5月 60名・5日間	地方公共団体等の土木工事積算業務担当の職員を対象に、土木工事および設計業務委託等積算体系の知識の修得をはかる。
工事管理演習	10月 40名・5日間	建設事業に携わる職員を対象に、演習を通じて施工管理に関し基本的に必要な知識・手順の習得をはかる。
土木構造物設計 (橋梁)	8月 50名・12日間	橋梁の設計業務に携わる職員で、基礎的知識を有する者を対象に、橋梁の計画・設計に必要な理論および設計手法などの基本的知識の修得をはかる。
プレストレスト・ コンクリート技術	10月 40名・5日間	建設事業に従事する職員を対象に、プレストレスト・コンクリートに関し、主としてPC橋を中心に必要な知識・技術の修得をはかる。
橋梁維持補修	11月 40名・5日間	橋梁の管理業務に携わる職員を対象に、橋梁の維持・補修について基本的な考え方から現状診断、補修方法までの知識の修得をはかる。
港湾工事	7月 50名・4日間	港湾工事に携わる実務経験5年未満の者を対象に、港湾工事に関し基本的に必要な知識の修得をはかる。

## 平成3年度研修計画（参考）

研修名	期日・人数	目的および対象者
実地検査	6月 40名・4日間	国庫補助事業の実地検査に関し経験の浅い者を対象に、検査に必要な基本的知識の修得をはかる。
建設工事紛争処理	9月 40名・4日間	建設事業に携わる職員を対象に、建設工事請負契約にかかわる紛争処理および未然防止の対応力の向上をはかる。
建設ロボット	9月 40名・4日間	建設事業に携わる者を対象に、建設工事にかかわるロボットについての最近の知識・情報の修得をはかる。
研修企画	9月 30名・3日間	組織における研修を企画する職員を対象に、職員研修の企画に関する基本的知識とその手順の修得をはかる。
国際協力	8月 20名・19日間	地方公共団体、公団、公社ならびに民間企業の職員を対象に、国際協力活動に対応するため、英会話能力ならびに国際感覚の修得をはかる。
国際交流	1月 24名・6日間	国際交流活動のため、これに必要な英会話ならびに国際的感覚の修得をはかる。
電気工作物	7月 40名・5日間	電気工作物に携わる者を対象に、電気工作物の工事・維持・運用に関し基本的に必要な知識の修得をはかる。
第1級陸上特殊無線技士	11月 50名・16日間	第1級陸上特殊無線技士の資格を取得するため、郵政大臣が定める実施基準に適合した講習により無線従事者を養成する。
建築指導科 (監視員)	5月 80名・12日間	建築指導行政を担当する職員を対象に、建築監視員としての必要な実務知識の修得をはかる。
建築計画	2月 40名・4日間	建築物の一般計画に関して、一級建築士相応の知識を必要とする者を対象に、建築計画に必要な基本的知識の修得をはかる。
建築新技術	9月 40名・3日間	建築業務に携わる技術者を対象に、最近の建築業界における新技術についての基本的な知識の修得をはかる。
建築構造 (RC構造)	6月 40名・9日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築構造に携わる者を対象に、建築構造に関する必要な知識の修得をはかる。
建築(設計)	11月 40名・10日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築業務を担当する職員を対象に、建築設計に関する必要な知識の修得をはかる。
建築構造電算	7月 25名・5日間	構造設計・計算の電算利用経験が少ない者を対象に、ソフトウェアの概要、アウトプットの適切な判断等に関する基本的な知識の修得をはかる。
建築(積算)	8月 40名・6日間	国、地方公共団体、公団、公社等の職員で建築積算に従事する者を対象に、建築積算の実務に必要な専門知識を演習を通じて修得をはかる。
建築施工監理	11月 60名・6日間	国、地方公共団体、民間建築業界で施工監理業務を担当する職員を対象に、建築施工監理（設備工事を除く）に必要な知識・技術の修得をはかる。
建築設備積算	10月 40名・5日間	国、地方公共団体、公団、公社等の職員を対象に、建築設備工事の積算について基礎的な知識の修得をはかる。
建築設備(空調)	9月 40名・10日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築設備を担当する職員を対象に、建築空調設備に関する必要な知識の修得をはかる。
建築設備(電気)	1月 40名・10日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築設備の設計・施工を担当する職員を対象に、建築電気設備に関する必要な知識の修得をはかる。
建築保全	1月 40名・5日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築保全業務に携わる職員を対象に、建築保全に関し基本的に必要な知識の修得をはかる。
都市計画一般	6月 50名・12日間	地方公共団体・都市計画コンサルタント業界等で、都市計画業務経験2年以下の者を対象に、都市計画業務の基本的知識の修得をはかる。
都市再開発一般	10月 50名・6日間	地方公共団体等の都市再開発業務に携わる職員を対象に、都市再開発に関する基本的に必要な知識の修得をはかる。
民間都市開発	9月 50名・5日間	都市開発業務に携わる者を対象に、民間都市開発事業を効果的に推進するために、基本的に必要な知識の修得をはかる。

研修名	期日・人数	目的および対象者
都市デザイン	12月 40名・5日間	地方公共団体、民間業界等において、都市デザイン業務に携わる職員を対象に、都市デザインに必要な専門的知識の修得をはかる。
地区創造計画	2月 40名・5日間	地区振興事業の調査分析に携わる者を対象に、地区特性に合った振興計画を効果的に推進するために必要な体系的知識の修得をはかる。
商業空間開発	11月 40名・4日間	都市開発または商業施設の計画・運営に携わる職員を対象に、商業空間の開発ならびに商業地域づくりに関する専門的知識・技術の修得をはかる。
都市計画街路一般	10月 50名・12日間	地方公共団体、都市計画コンサルタント業界等で、都市計画街路業務経験2年以下の者を対象に、街路事業の基本的に必要な知識の修得をはかる。
花と緑	2月 40名・4日間	地方公共団体等の職員で「花と緑」関係の業務に携わる者（緑化相談員等）を対象に、花と緑のデザイン、植栽に関する基本的な知識・技術の修得をはかる。
あそび環境デザイン	2月 40名・4日間	都市整備事業等に携わる者を対象に、快適な魅力あるあそび空間の創造とデザインに関する専門的知識の修得をはかる。
下水道積算実務	10月 40名・5日間	下水道工事の設計・積算・契約等の業務に携わる職員を対象に、主として排水施設等の工事契約ならびに積算手法についての基礎的知識の修得をはかる。
下水道	9月 60名・5日間	下水道に関する計画・設計・施工に携わる職員（日本下水道協会会員を除く）を対象に、基本的に必要な知識・情報の修得をはかる。
ダム管理	10月 35名・11日間	国、地方公共団体、公団等のダム管理業務に携わる技術職員を対象に、ダム管理に必要な知識の修得をはかる。
ダム管理 (操作実技訓練4回)	4月～1月 各6名・4回 計24名・各4日間	国および地方公共団体等のダム管理所において、ダム操作に従事している職員を対象に、ダム操作の技術の習得をはかる。
河川一般	10月 40名・6日間	中小流域の河川に係わる業務に携わる職員を対象に、中小流域の河川に係わる最近の課題に対応するために必要な知識の修得をはかる。
河川技術(演習)	7月 40名・6日間	河川業務に携わる職員を対象に、河川の調査・計画・設計等に関する必要な知識の修得をはかる。
河川総合開発 —ダム設計—	5月 60名・6日間	ダム事業に携わる中堅技術職員を対象に、最近のダム課題に対応するために必要なダムの調査設計に関する総合的な知識の修得をはかる。
水資源	9月 40名・6日間	水資源計画に経験の浅い職員を対象に、水資源計画に関する専門的知識の修得をはかる。
河川構造物設計一般	6月 40名・12日間	河川構造物の設計業務を担当する職員を対象に、河川構造物等の機能設計に必要な知識の修得をはかる。
砂防一般	11月 40名・5日間	地方公共団体、公団、公社、コンサルタント等の職員を対象に、砂防に係わる最近の課題に対応するために必要な知識の修得をはかる。
砂防等構造物設計演習 —砂防・地すべり・急傾斜地・雪崩—	7月 40名・10日間	砂防・地すべり・急傾斜地・雪崩施設の調査設計業務に関し、実務経験2年程度の者を対象に、各構造物の調査・計画・設計の専門知識の修得をはかる。
斜面安定対策工法	5月 60名・4日間	建設事業に携わる職員を対象に、のり面の崩壊防止、保護工等の安定対策工事についての調査・設計・施工の専門的知識の修得をはかる。
災害復旧実務	1月 50名・6日間	地方公共団体等の災害復旧業務を担当する実務経験3年以下の職員を対象に、災害復旧の実務に必要な知識の修得をはかる。
災害復旧実務 中堅技術者	5月 50名・6日間	地方公共団体等の災害復旧業務を担当する実務経験3年以上の技術職員を対象に、災害復旧の実務に必要な専門知識の修得をはかる。
道路計画一般	11月 60名・11日間	道路等の調査・設計業務に携わる経験の少ない者を対象に、道路(県道、市町村道)の調査・計画および設計に関する知識の修得をはかる。
道路舗装	7月 60名・5日間	地方公共団体等の職員で舗装業務に携わる実務経験3年程度の職員を対象に、舗装に関する知識の修得をはかる。
道路管理	9月 60名・12日間	道路管理業務を担当する職員を対象に、道路管理に必要な知識の修得をはかる。

# 平成3年度研修計画（参考）

研修名	期日・人数	目的および対象者
市町村道	11月 50名・5日間	市町村道業務を担当する職員を対象に、市町村道に関する総合的な専門知識の修得をはかる。
地価調査担当者等	5月 100名・10日間	都道府県ならびに指定都市の地価調査関係業務担当職員を対象に、土地評価に関する基礎的な知識の習得をはかる。
土地調査員	8月 90名・6日間	都道府県ならびに指定都市の土地調査員を対象に、土地調査員に必要な基礎知識の習得をはかる。
価格審査担当者	10月 95名・5日間	都道府県および指定都市ならびに都道府県等から委任を請けた市町村の価格審査担当職員を対象に、土地評価に関する基礎的な知識の習得をはかる。
補償コンサルタント (用地基礎) I・II	4月 各60名・5日間	補償コンサルタント業務を行う者の資質の向上をはかるため、公共用地の取得に関する基礎的な知識の修得をはかる。
補償コンサルタント専門 (営業補償・特殊補償、事業損失部門)	7月 60・50名・各6日間	補償コンサルタント登録部門の専任管理者または、これに準ずる者を対象に、補償に関する専門知識の修得をはかる。
土木積算体系	7月 50名・5日間	公社および建設事業関係者で土木工事積算業務を担当する職員を対象に、土木工事積算に関する基礎知識の修得をはかる。
実行予算	9月 60名・3日間	建設工事の実行予算業務に携わる者を対象に、建設工事の実行予算に係わる考え方とコストの基本についての修得をはかる。
建設市場開発戦略 セミナー	11月 40名・3日間	建設関連事業における営業・開発活動を中心に今後の需要の創出、新分野への進出等に関する諸対策に必要な知識・情報の修得をはかる。
仮設工	7月 50名・5日間	建設事業に携わる職員を対象に、土留、仮締切、型枠、支保工、仮設栈橋等の設計・施工に関する知識・技術の修得をはかる。
土木構造物 (くい基礎)	4月 60名・5日間	土木構造物の設計関連業務に携わる者を対象に、くい基礎の構造理論、設計手法等の専門的知識の修得をはかる。
英文契約仕様	4月 30名・4日間	国際業務に携わる職員を対象に、英文契約仕様に関し必要な英文知識の基本的な修得をはかるとともに外国企業への対応力をたかめる。
海外プロジェクト 実務者	6月 30名・13日間	海外の建設プロジェクトに携わる実務者を対象に、プロジェクトマネージャーとしての人材養成をはかる。
地質調査 (土質・岩盤・地下水コース)	4月・5月 50, 40, 40名・6, 6, 5日間	国、地方公共団体および業界等において地質調査業務に従事する技術職員を対象に、地質調査の専門的な知識の修得をはかる。
土質設計計算演習	11月 40名・4日間	建設事業に携わる者を対象に、現場実務に直結した事例を主体に設計計算演習を通じて土質設計に関する専門的知識の修得をはかる。
ソイル・リクェイクション (土の液状化現象)	2月 40名・3日間	国土保全ならびに建設事業に携わる職員を対象に、基礎地盤の液状化に関する専門的知識の修得をはかる。
補強土工法	11月 40名・5日間	建設事業に携わる者を対象に、補強土工法の設計・施工に関して最新の知識・技術の修得をはかる。
地盤処理工法	9月 50名・5日間	建設技術職員で実務経験3年程度の者を対象に、土木建設工事に係わる軟弱地盤改良工事に関する専門的な知識・技術の修得をはかる。
地すべり防止技術	5月 50名・9日間	地すべり調査および防止対策に従事し一定の実務経験年数を有する技術職員を対象に、より有効な災害防止を行うために必要な専門的知識の修得をはかる。
近接施工	9月 40名・4日間	建設事業に携わる技術職員を対象に、各種既設構造物に対しての近接施工について調査・設計手法・対策工法などの専門知識の修得をはかる。
工程管理 (基本)	5月 60名・3日間	建設事業に携わる職員を対象に、工程管理の基本的な考え方を理解するとともに、演習を通してその手法と利用法の修得をはかる。
電算利用 (I) (II)	7月・10月 各40名・各3日間	建設分野における身近なパソコン利用、エキスパートシステム、ファジーに関し、必要な最新の知識・情報の修得をはかる。
データベース	9月 40名・3日間	データベースユーザーを対象に、データベースの構築と活用に関する最新の知識・情報の修得をはかる。

研修名	期日・人数	目的および対象者
建設パソコン実習 (初級)	4月 25名・5日間	建設事業に携わるパソコン未経験者を対象に、建設技術におけるパソコン利用について実習により初歩的知識・技術の修得をはかる。
建設パソコン実習 (中級)	7月 25名・5日間	建設事業に携わる職員で、簡単なプログラミングができる者を対象に、ケーススタディと実習により、知識・技術の向上をはかる。
ダム管理主任技術者 (学科1回・実技12回)	学科72名、4月・6日間 実技各6名・5月～10月・各4日間	河川法第50条に基づくダム管理主任技術者及びその候補者を対象に、ダムの安全管理に必要な知識・技術の修得をはかる。
ダム管理技士 (実技試験)	11～12月(10回) 各6名・各3日間	ダム管理技士認定試験の学科試験に合格した者に実技試験を行う。
ダム工事技術者一般	12月 50名・12日間	土木建設工事に従事するダム工事の実務経験3年以下の職員を対象に、ダム工事に関する基礎的知識の修得をはかる。
ダム工事技術者中堅	11月 45名・19日間	土木建設工事に従事するダム工事の実務経験3年以上の職員を対象に、ダム工事の専門的知識・技術の修得をはかる。
道路技術一般	4月 70名・17日間	道路建設工事に従事する業界技術職員で、一定の資格を有する者を対象に、主任技術者養成に必要な施工技術の修得をはかる。
道路技術専門	6月 80名・6日間	道路建設工事に従事する業界上級技術職員で、一定の資格を有する者を対象に、舗装に関する専門的な高度の知識の修得をはかる。
舗装技術	5月 40名・4日間	道路工事に従事する技術職員を対象に、舗装に関して必要な技術・知識の修得をはかる。
透水性舗装	9月 50名・3日間	建設事業に携わる技術職員を対象に、透水性舗装についての理論および設計・施工などの専門知識の修得をはかる。
シールド工法一般	5月 40名・4日間	シールド工事に従事する技術職員を対象に、シールド工事の施工に関し、基本的に必要な知識・技術の修得をはかる。
シールド工法中級	9月 50名・4日間	シールド工事に従事している現場技術職員を対象に、シールド工事の施工に関する専門的な技術・知識の修得をはかる。
推進工法	9月 60名・4日間	推進工事に従事する技術職員を対象に、推進工法の設計・施工に関する専門的な技術・知識の修得をはかる。
推進工法積算実務	4月 60名・4日間	下水道推進工事の設計・積算業務に経験の浅い職員を対象に、下水道推進工事の施工計画から積算までの基本的な知識の修得をはかる。
ナ ト ム	6月 50名・5日間	土木建設工事に従事する経験の少ない現場技術職員を対象に、ナトム工事の設計・施工等に関する専門的な技術・知識の修得をはかる。
ナ ト ム (契約・積算)	7月 50名・4日間	ナトムの設計、積算、契約の業務に従事する職員に対し、契約の基本的な考え方、積算についての施工計画・積算手法についての知識の修得をはかる。
コンクリート 施工技術	6月 50名・5日間	土木建設工事に従事する一定の実務経験年数を有する者を対象に、最近のコンクリート技術に関する専門的な技術・知識の修得をはかる。

## 研修の問合せ先

研修局 〒187 東京都小平市喜平町2-1-2 ☎0423(24)5315(代)



# 技術検定試験・研修等（参考）

種 目	受 験 資 格	試験実施日 (平成3年)	試 験 地	申込受付期間 (平成3年)
一級土木施工管理 技 術 検 定 学 科 試 験	短大卒以上の学歴で、学歴により 所定の実務経験年数を有する者。 二級土木施工管理技士で所定の実 務経験年数を有する者。	7月7日(日)	札幌・釧路・仙台・ 東京・新潟・名古屋・ 大阪・広島・高松・ 福岡・那覇	3月19日から 4月1日まで
一級土木施工管理 技 術 検 定 実 地 試 験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	10月6日(日)	札幌・釧路・仙台・ 東京・新潟・名古屋・ 大阪・広島・高松・ 福岡・那覇	当年度合格者 8月16日～8月30日 その他の該当者 8月6日～8月20日
二級土木施工管理 技 術 検 定 学 科 ・ 実 地 試 験 (土木・鋼構造物塗装・薬液注入)	学歴により所定の実務経験年数を 有する者。	7月21日(日)	上記に同じ [但し、種別：鋼構造物] 塗装・薬液注入につい ては札幌・東京・大阪・ 福岡	3月19日から 4月1日まで
一級管工事施工管理 技 術 検 定 学 科 試 験	短大卒以上の学歴で、学歴により 所定の実務経験年数を有する者。 二級管工事施工管理技士で、所定 の実務経験年数を有する者。 職業能力開発促進法による管工事 関係の一級技能検定合格者。	9月1日(日)	札幌・仙台・東京・ 新潟・名古屋・大阪・ 広島・高松・福岡・ 那覇	5月23日から 6月5日まで
一級管工事施工管理 技 術 検 定 ・ 実 地 試 験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	12月1日(日)	札幌・東京・名古屋・ 大阪・福岡	10月18日から 11月1日まで
二級管工事施工管理 技 術 検 定 学 科 ・ 実 地 試 験	学歴により所定の実務経験年数を 有する者。 職業能力開発促進法による管工事 関係の一級または二級の技能検定 合格者。	9月15日(日)	札幌・仙台・東京・ 新潟・名古屋・大阪・ 広島・高松・福岡・ 那覇	5月23日から 6月5日まで
一級造園施工管理 技 術 検 定 学 科 試 験	短大卒以上の学歴で、学歴により 所定の実務経験年数を有する者。 二級造園施工管理技士で、所定 の実務経験年数を有する者。 職業能力開発促進法による造園の 一級技能検定合格者。	9月1日(日)	札幌・仙台・東京・ 名古屋・大阪・広島・ 福岡	5月31日から 6月14日まで
一級造園施工管理 技 術 検 定 ・ 実 地 試 験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	12月1日(日)	札幌・東京・大阪・ 福岡	10月22日から 11月5日まで
二級造園施工管理 技 術 検 定 学 科 ・ 実 地 試 験	学歴により所定の実務経験年数を 有する者。 職業能力開発促進法による造園の 一級または二級の技能検定合格者。	9月15日(日)	札幌・仙台・東京・ 名古屋・大阪・広島・ 福岡	5月31日から 6月14日まで
土地区画整理技術者 試 験	学歴により所定の実務経験年数を 有する者。 不動産鑑定士及び同士補で所定 の実務経験を有する者。	9月1日(日)	東京・大阪	5月23日から 6月5日まで
浄化槽設備士 試 験	学歴により所定の実務経験年数を 有する者。 職業能力開発促進法による配管 (建築配管作業)の一級または二級 の技能検定合格者。 建設業法による一級または二級管 工事施工管理技術検定合格者。	6月2日(日)	仙台・東京・名古屋・ 大阪・福岡	4月15日から 4月26日まで

種 目	受 講 資 格	研修実施日 (平成3年)	研 修 地 (地区)	申込受付期間 (平成3年)
二級土木施工管理 技 術 研 修	学歴により所定の実務経験年 数を有する者。	6月上旬	沖縄・九州	3月19日から 4月1日まで
		6月中旬	九州・近畿	
		6月下旬	沖縄・九州・近畿	
		7月上旬	九州・四国・中国・近畿	
		7月中旬	沖縄・九州・四国・中国・北陸	
		7月下旬	沖縄・四国・中国・近畿・北陸	
		9月上旬	中国・近畿・中部・関東・東北・ 北海道	
		9月中旬	近畿・中部・関東・東北・北海道	
		10月上旬	近畿・中部・関東・北海道	
		10月中旬	近畿・中部・関東・北海道	
		10月下旬	近畿・中部・関東・東北・ 北海道	
11月上旬	関東・東北・北海道			

種 目	受 講 資 格	考查実施日 (平成3年)	考 査 地	申込受付期間 (平成3年)
管工事業に係る 大臣認定 大考	(資格) 職業能力開発促進法による技 能検定のうち、検定職種を1 級の配管、空気調和設備配管、 給配水設備配管又は配管工と するものに合格した者。	12月1日(日)	札幌・東京・名古屋・大阪・ 福岡	10月11日から 10月25日まで

## 技術検定関連試験・研修等問合せ先

- 土木施工管理技術検定〈一・二級学科及び実地試験〉(土木試験課)
- 二級土木施工管理技術研修(土木研修課) ●土木技術者特別認定講習(土木講習課) ☎03(3581)0138(代表)
- 管工事施工管理技術検定〈一・二級学科及び実地試験〉(管工事試験課)
- 造園施工管理技術検定〈一・二級学科及び実地試験〉(造園試験課)
- 土地区画整理技術者試験(区画整理試験課) ●管工事技術者特別認定講習及び考查(管工事試験課)
- 浄化槽設備士試験(管工事試験課) ☎03(3581)0847(代表)

試験業務局 〒100 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスヒル永田町ビル

# 懸賞論文募集

全国建設研修センターは、「建設省における建設研修の充実に協力するとともに、広く建設技術の普及向上を図ること」を目的として建設技術等の研修事業並びに建設業法に基づく指定試験機関としての技術検定試験の実施業務を主たる柱として事業を推進しております。

これらの事業の一環として、「土木施工技術の発展と今後の土木工事の円滑な施工に寄与するため」、昭和58年度から土木施工管理に関する論文募集を行っております。

当センターは、おかげさまで平成4年には、創立30周年を迎えることとなり、その記念事業として、この懸賞論文募集を実施いたします。

特に今回は、建設事業に従事する土木技術者に幅広くご応募いただけるよう下記のように募集区分を設けましたので、奮ってご参加くださるようお願いいたします。

## 応募要領

### < テーマ >

- 建設工事における土木施工管理に関するもの。  
(環境保全対策、工事安全対策、公衆安全対策等も含む)  
工事現場における効果的な土木施工管理の具体例及び土木施工管理技術に関する研究・開発の具体的な実例等。

### < 募集区分 >

- (A) 工事金額1億6千万円未満の工事に関するもの。
- (B) 工事金額1億6千万円以上の工事に関するもの。

### < 応募資格 >

- 土木工事の施工管理に携わっている技術者。  
(発・受注者及び社内での共同研究、共同執筆も可)

### < 応募規定 >

- ◇200字詰原稿用紙 30~50枚 (図・表を含む)。
- ◇ワープロ使用時は、1行20字とし、200字詰原稿用紙換算枚数を明記してください。
- ◇論文は、原則として未発表のもの。

なお、部分的に既発表のものを引用する場合は、発表先を明記し、掲載文献(コピー可)を必ず添付してください。

- ◇応募原稿は、返却いたしません。

### < 応募方法 >

- ◇応募者は、住所、氏名、生年月日、勤務先(所属・職名・連絡先電話番号)及び募集区分を明記してください。
- ◇1,000字程度の要旨を添付してください。
- ◇グループ応募の場合は、代表者名を明記してください。

## 締切日

平成3年11月30日(土)

## 入選発表

平成4年3月31日(火)

入賞者には、各個人宛通知するほか、日刊建設工業新聞、日刊建設産業新聞及び建設通信新聞に掲載いたします。

## 賞金

募集区分(A)、(B)毎に次の通り。

- 最優秀賞 30万円 (各1編)
- 優秀賞 15万円 (各2編)
- 佳作 5万円 (各5編)

応募者全員に記念品及び入選論文集(機関誌「国づくりと研修」別冊号)を進呈いたします。

## 論文送付先及び問合せ先

財団法人 全国建設研修センター  
建設研修総合研究所  
〒100 東京都千代田区永田町1-11-35  
全国町村会館内  
TEL 03-3581-6623  
FAX 03-3581-6625

## 財団法人 全国建設研修センター

- 共 催
- ☆社団法人 全国建設業協会
  - ☆社団法人 日本土木工業協会
  - ☆社団法人 日本道路建設業協会
  - ☆社団法人 全国中小建設業協会
  - ☆社団法人 日本建設機械化協会
  - ☆社団法人 全日本建設技術協会
  - ☆全国土木施工管理技士会

後 援 建 設 省



## 建設省大臣官房技術調査室

企画・制作：財全国建設研修センター

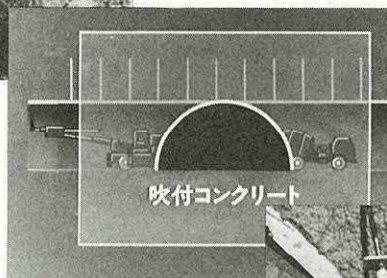
土木技術者教育用ビデオ (VHS32分)

# NATMにみる品質管理

定価 39,140円(送料、消費税込み)



- ★品質管理についてNATMを題材に解説
- ★品質管理の基本的知識の習得ができる
- ★NATMの基礎的理論の習得ができる



- ★理論を講義形式、実務を現場事例で
- ★豊富なアニメーション
- ★学生から現場技術者まで幅広く利用できる
- ★詳しい解説書付

●お申し込み・お問い合わせは…

財全国建設研修センター 建設研修調査会

〒100 東京都千代田区永田町1-11-35 全国町村会館内

TEL 03(3581)1281

FAX 03(3581)1280

★ご購入の際は上記まで、はがきあるいはFAXでお申し込み下さい。



平成3年10月10日発行©

編 集	『国づくりと研修』編集小委員会 東京都千代田区永田町1-11-35 全国町村会館 〒100 TEL 03(3581)1281
発 行	財団法人全国建設研修センター 東京都小平市喜平町2-1-2 〒187 TEL 0423(21)1634
印 刷	株式会社 日誠



# 国づくりの研修